

令和元年度 むらネット九州

(豊かなむらづくりをめざして)



九州農政局ホームページ
<http://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/murazukuri/murazukuri.html>

農林水産省
九州農政局

目 次

令和元年度農林水産祭むらづくり部門

- | | |
|---|------------------------------|
| 1 | 令和元年度（第 58 回）農林水産祭むらづくり部門 |
| | 天皇杯 |
| 2 | 西江上区（沖縄県 伊江村） |
| | 内閣総理大臣賞 |
| 2 | 一般社団法人竹田文化共栄会（福井県 坂井市） |
| | 日本農林漁業振興会会長賞 |
| 3 | 由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」（山形県 鶴岡市） |

受賞団体（九州ブロック）の紹介

- | | |
|----|----------------------------|
| | 農林水産大臣賞 |
| 4 | 農事組合法人グリーンファーム畑（大分県 豊後高田市） |
| 10 | 酒谷地区むらおこし推進協議会（宮崎県 日南市） |
| 16 | 宿利原地区公民館（鹿児島県 錦江町） |
| | 九州農政局長賞 |
| 22 | さいかい元気村協議会（長崎県 西海市） |

豊かなむらづくり全国表彰事業

- | | |
|----|--------------------------|
| 26 | 「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」 |
| 27 | むらづくり部門天皇杯等受賞団体一覧表 |
| 28 | 受賞団体一覧表（九州ブロック県別） |

施策情報

- | | |
|----|-----------------------|
| 35 | 「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」を選定 |
| 36 | 全国選定団体の紹介（九州） |

「むらネット九州」の定期送付について

九州農政局では、豊かなむらづくり全国表彰事業受賞団体を含めたむらづくり活動団体間の情報交換等を図るため、豊かなむらづくり九州ネットワークを設置し、同ネットワークに登録いただいた方へ、年 1 回、この冊子「むらネット九州」を送付しています。（登録料・送料は不要）

「むらネット九州」の定期送付を希望される方は、裏表紙の連絡先をまでご連絡ください。

令和元年度（第 58 回）農林水産祭むらづくり部門

天 皇 杯	にし え う え く （沖縄県伊江村）
内 閣 総 理 大 臣 賞	一般社団法人 ^{たけ だ ぶん か きょうえい かい} 竹田文化共栄会（福井県坂井市）
日本農林漁業振興会会長賞	ゆ ら 由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」（山形県鶴岡市）

令和元年度豊かなむらづくり全国表彰事業 農林水産大臣賞受賞団体

受賞団体名	所在地	受賞団体名	所在地
農事組合法人 ^{かみおぐに} 上小国ファーム	青森県 ^{そとがはままち} 外ヶ浜町	^{うみかみく} 海上区	兵庫県 ^{しんおんせんちよう} 新温泉町
由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」	山形県鶴岡市	^{ひだ} 日田集落	鳥取県 ^{やずちよう} 八頭町
会津いなわしろ ^{みね} 見祢集落・ ^{ゆいのむら} 結乃村	福島県猪苗代町	^{ごみよう} 五名活性化協議会	香川県東かがわ市
ひろうら田舎暮らし体験推進協議会	茨城県茨城町	住民自治されだに	愛媛県伊予市
^{こいさごびれっじ} 小砂village協議会	栃木県 ^{なかがわまち} 那珂川町	農事組合法人グリーンファーム ^{はた} 畑	大分県豊後高田市
^{たいら} 平生産管理組合	長野県長野市	^{さかたに} 酒谷地区むらおこし推進協議会	宮崎県日南市
一般社団法人竹田文化共栄会	福井県坂井市	^{やどり はら} 宿利原地区公民館	鹿児島県 ^{きんこうちよう} 錦江町
^{かしも} 加子母むらづくり協議会	岐阜県中津川市	^{にし え う え} 西江上区	沖縄県伊江村
^{ちないく} 知内区農地・みずべ環境保全向上協議会	滋賀県高島市		

令和元年度（第 58 回）農林水産祭における天皇杯等の受賞者が 10 月 18 日に決定し、むらづくり部門では、豊かなむらづくり全国表彰事業の農林水産大臣賞受賞団体のなかから、天皇杯に西江上区（沖縄県伊江村）、内閣総理大臣賞に一般社団法人竹田文化共栄会（福井県坂井市）、日本農林漁業振興会会長賞に由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」（山形県鶴岡市）が選定されました。

西江上区は、沖縄本島から 9 km の洋上に位置する周囲 22.4km の伊江島にあり、水不足に悩まされてきた歴史をもつ農村です。西江上区は、住民が一丸となつてかんがい農業の導入に取り組み、特産品の開発等により農業所得を確保するとともに、都市農村交流活動にも取り組んでいます。

一般社団法人竹田文化共栄会は、福井県坂井市の山間地域・竹田地区において、直売所、農村体験交流施設等の施設を活用しながら、農林産物・加工品の販売や、関係人口の拡大、移住者への空き家の提供等に取り組んでいます。

由良地域協議会は、山形県鶴岡市の海岸部・由良地域において、祭りの活性化や地域の催事等の映像化、女性を主体とした 6 次産業化等による漁業者の所得向上、都市農村交流活動等に取り組んでいます。

なお、農林水産祭及び豊かなむらづくり全国表彰事業については P26 及び農林水産省ホームページ（http://www.maff.go.jp/j/nousin/noukei/binosato/b_maturi/）をご覧ください。

天皇杯 西江上区（沖縄県伊江村）

～進取の精神で取り組むむらづくり～

・むらづくり組織の概要

西江上区の運営は、区行政委員会を中心に、老人会、婦人会、青年会、子供会、OB 会が参画している。また、西部かん水組合や集落内の排水路・道路の清掃を行う伊江地域資源保全の会と連携してむらづくりに取り組んでいる。



・むらづくりの取組概要

- ① 昭和 50 年代、儲かる農業、若者に魅力ある農業を目指し、かんがい農業を導入するために区民が話し合い、水確保の事業の推進等を区民が一丸となって取り組んだ。昭和 55 年には西部かん水組合を発足し、伊江村でのかんがい農業を先駆けて行った。区の農家所得が増加したことにより、かんがい農業の重要性を村内に浸透させるに至った。
- ② 現在、担い手が増え、地域の牽引役となって IoT など新技術導入も図られている。また、若い農業者が中心となり伊江村青年農業交流会、女性経営参画の促進のための農業簿記経営講座などを開催し、経営の向上を目指した担い手育成に取り組んでいる。
- ③ 村内で生産する肉用牛やラム酒、黒糖やピーナツの加工品等、数々の特産品が作られるようになり、6次産業化にもつながっている。
- ④ 耕土流出等の環境への影響を未然に防止するため、地域を挙げて環境保全に取り組み、併せて子供達への農業体験活動も実施している。農業生産の大切さを次代へつなぐ活動の中、地域住民が更に一体となり、農業農村の環境保全、良好なアメニティー形成を進めている。
- ⑤ 区において平成 15 年から始まった修学旅行を主とした民泊は、当初は年間3校、300 人余りの受入れであったが、現在では、村全体に拡がり、年間 300 校、4万人の受入れまで拡大した。また、修学旅行生が地域住民と共同で海岸や史跡の清掃活動に取り組むなど、都市と村の交流における農村の魅力を発信している。

内閣総理大臣賞 一般社団法人竹田文化共栄会（福井県坂井市）

～山間地域における地域資源を活かしたむらづくり～

・むらづくり組織の概要

一般社団法人竹田文化共栄会（以下「共栄会」という。）は、竹田地区の山林資源の保全、森林経営等を行う目的で昭和 39 年に設立。平成 25 年に一般社団法人へ移行し、市から地区内の関連施設の指定管理を受託し、地域運営を展開している。共栄会には地区のほぼ全戸が加入し、役員は各集落の区長、関連施設の常勤職員等で構成している。



・むらづくりの取組概要

- ① ゼンマイやワラビなどの山菜、自然薯、清流を利用したコシヒカリ等を直売所等で販売している。また、廃校となった旧小中学校の校舎をリノベーションした農村体験交流施設「ちくちくぼんぼん」(以下「ちくちくぼんぼん」という。)では、地元の農林産物を提供し、消費拡大に取り組むほか、全館の冷暖房にバイオマス・ボイラーを備え、地元の間伐材を利用した木質ペレットを使用して森林の活用を図っている。
- ② ちくちくぼんぼんでは、本地区の豊かな自然を活かした多彩な体験プログラムを開発・提供しており、県内外からの交流人口が増加している。
- ③ ちくちくぼんぼんでは、地元女性を「おばあシェフ」として、食堂部門に雇用している。また、29年には、保育園を改修したレストランでは、女性シェフ(Uターン者)に経営を任せ、薪ストーブを利用した料理を提供し、人気スポットとなっている。
- ④ 地域おこし協力隊や緑のふるさと協力隊も受け入れ、共栄会が行う地域活動に従事してもらっている。また、空き家をシェアハウスに改修し、他地区からの新たな人材・移住者を受け入れ、お試し移住を行っている。

日本農林漁業振興会会長賞 **由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」**(山形県鶴岡市)

～伝統的な漁村文化の継承と活用をめざしたむらづくり～

・むらづくり組織の概要

平成19年に漁業者等の若手有志が中心となって地域資源を地域内外に伝える取組を始め、その後に自治会や観光協会、漁業団体が加わり、21年3月に由良地域協議会「ゆらまちっく戦略会議」が設立、地域の活性化と新たな地域づくり活動を本格化させた。



・むらづくりの取組概要

- ① 「由良港大漁祭」等の魚食イベントでは、魚介類の販売や宿泊客への魚介類提供による魚の消費拡大を図っている。また、これまで東北地方で注目されてこなかったトラフグやマフグ等の情報発信に取り組むほか、神経締めしたサワラをブランド化し、近隣市場に加え、江東区豊洲市場への出荷を開始するなど販路を広げている。
- ② 漁協女性部由良支部の有志で結成した「ゆらまちっく海鮮レディース」は、商品価値が低い小鯛などにスポットを当て、焼いた小鯛を乾燥させた地域伝統のだしやそのだしを練り込んだうどん等を開発・販売し、水産加工による所得の向上を図っている。
- ③ 小中学生向けの漁業体験メニューを提供するとともに、由良港で行われている漁法や由良地域の伝統文化、記録等を映像化し次世代に継承する取組を行っている。
- ④ 存続が難しくなっていた白山神社の祭り「海中神輿」を活性化させるため、ウェブサイト等でPRし、現在では漁業者と住民を結びつける一大イベントとなっている。
- ⑤ 小中学生向けの体験メニューや海水浴シーズンを避けたイベント、海岸のゴミ拾いのスポーツ化等により、交流人口の拡大に取り組んだ結果、平成30年のツーリズム利用者は1,200人にまで拡大している。

農林水産大臣賞受賞

農事組合法人グリーンファーム畑^{はた}

(大分県豊後高田市^{ぶんごたかた})

～緑豊かな農地を守り、女性のパワーで地域を活性化～

■地域の沿革と概要

豊後高田市は、大分県の北東部、国東半島の西側に位置し、半島中央の両子山^{くにさき}から放射状に走る山地の谷間毎に農地や宅地が存在している。

本市は、国宝の富貴寺^{ふきじ}等があり、「仏の里」として知られており、さらに、昭和30年代をテーマに地元商店街を改修した「昭和の町」が脚光を浴び、年間約40万人が訪れる新しい観光地となっている。

市の農業は、海岸部の干拓地で白ねぎを中心とした大規模農業が展開され、中山間地域では、集落等を単位とした集落営農組織による農業経営が推進されている。

畑集落のある草地地域^{くさじ}は、豊後高田市の中部に位置し、山地を挟んで4つの集落に分かれ、農地は山麓斜面に拓けている。

農業と林業が主な産業である畑集落は、昭和53年～平成5年には場整備が実施され、農地の6割が整備されたが、約8haは未整備のまま存在している。



図1. 位置図



図2. 草地地域の地形



写真1. そば畑が広がる畑集落

1. むらづくりの動機・背景

(1) むらづくりの始まり

畑集落では、ほ場整備後、米の生産調整や地域の高齢化も相まって、地域ぐるみの組織づくりに向けた気運が高まっていた。同時期に計画された地域のため池改修工事も後押しとなり、平成18年に「地域の農地は地域で守り、安心して続けられる農業の実現」を理念に「畑営農組合」を設立した。あわせて、生産調整に対応するため、ブロックローテーションを導入し、麦、そばの生産を営農組合で取り組んだ。

地区データ（草地地域）

- ①所在地：大分県豊後高田市
- ③総人口：258人
- ⑤農家戸数：72戸

- ②地区の規模：4集落
- ④総世帯数：127戸
- ⑥主要農産物等：水稻、そば、麦、大豆

※③はH31年時、④⑤はH27年時

(2) 集落営農組織の法人化

地域の主たる担い手として位置づけられた畑営農組合は、地域の将来を考え、平成 21 年から法人格を持つ組織への取組みを始め、地域の構成員や女性も参加する先進地研修の開催や「法人化」の合意形成を図った。

その後、営農組合の理念を受け継ぎ、「集落の農地を守り、安心して農業が続けられる」、「皆と楽しく、利益の上がる農業の実現」として、平成 22 年に「農事組合法人グリーンファーム畑」（以下「グリーンファーム」という。）を設立した。

法人理念に則り、畑集落だけでなく、草地地域の他の集落からも農地を引き受けながら営農を拡大している。

2. むらづくりの推進体制

グリーンファームの特徴は、作業部、加工部の部門毎に、理事が責任者となり、毎月1回の役員会と日々の始業前の打合せで、進捗管理や作業指示の円滑な情報共有を行っている。

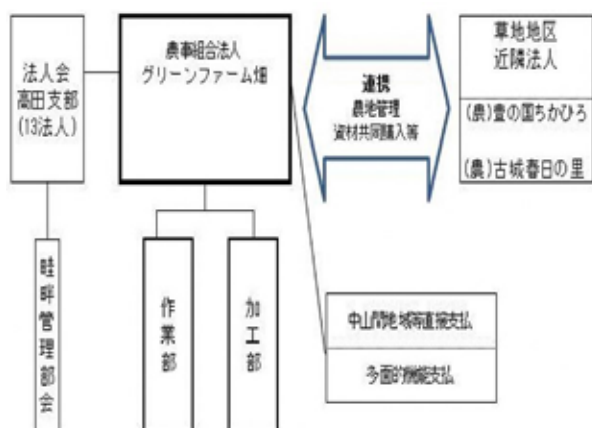
理事は6名で、運営方針は理事会の協議で決定する。このうち代表理事（組合長）、作業部理事、加工部理事、事務局会計が各部門の要として、法人運営を担っている。理事の多くは作業オペレーターと兼任し、作業の進捗に合わせた迅速な現場対応を行っている。役員の若返りと継承を見据えて、40代の理事を入れる等、法人が継続する体制をつくっている。

平成 28 年度以降、集落外から 40 代の常時雇用職員 1 名と集落内からパート 2 名を採用し、臨時雇用も含めると現在 8 名を雇用している。集落内の米専業の認定農業者に声をかけ、冬期の雇用を行っている。周辺農家を雇用し、地域全体が潤う活動を行っている。

(1) 作業部

は場の管理作業から調整・出荷作業を担当し、担当理事を1名設け、作業計画や人員配置の決定を一任されている。作業者は適性に合わせて役割が分担されている。水田の水管理等は地域毎に管理者を決め、責任を持たせて作業を配分する。草刈り作業等重労働は全員で行っている。

○集落営農法人の推進体制と関連組織



○集落営農法人とむらづくり等関係集落

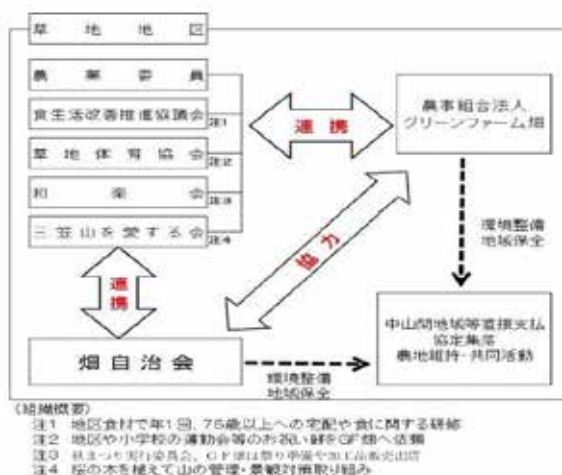


図3. むらづくり推進体制図

（２）加工部（はたむすめ）

集落の女性を雇用し、グリーンファームの生産物を用いた加工品を製造している。平成 28 年に加工所を設置し、「かきもち」や「乾燥野菜」、「白もち」等を加工し、市内外の 9 店舗で販売を行っている。

また、地域の高齢者へ配達される弁当の材料の提供や地域イベントへの出店も行っている。

３．むらづくりの特色と優秀性

（１）むらづくりの性格

グリーンファームは、米・麦・大豆だけでなく市が振興する「そば」の主力生産者であり、重要な担い手である。中山間地域の担い手がない近隣集落の農地や耕作放棄地を受け入れながら農地を守っている。さらに、園芸品目導入による売上の向上と、周年販売・担い手の雇用を可能にする等、永続的にむらづくりを行なっていく体制を築いている。また、地元の農産物を利用した加工品作りで地域女性の雇用の場も創出している。

さらに、しいたけ栽培にも取り組み、農産加工品とともに国東半島・宇佐地域世界農業遺産応援商品の拡大にもつながっている。

このように、グリーンファームは中山間地域の小さな集落において雇用を創出するため、絶えず新たな取組みに挑んでいる。

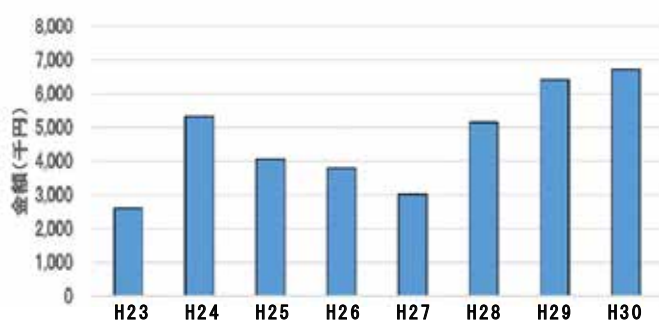


図 4．グリーンファームの地域還元金の経過

（２）農業生産面における特徴

①地域の中心経営体と水田フル活用～園芸品目の導入～

グリーンファームの設立により各種助成金を活用し、農地の利用率向上と地域の水田を守る仕組みができた。拠点である畑集落からの耕作依頼は無条件で受け入れている。近年では、草地地域の他からの依頼も増加し、平成 30 年は 32ha に拡大した。現在では、草地地域の人・農地プランの中心経営体に位置づけられた。

経営面積の拡大に併せて、大型機械を導入した低コスト化ならびに、営農支援システム「アグリノート」を活用した作業の効率化を図っている。

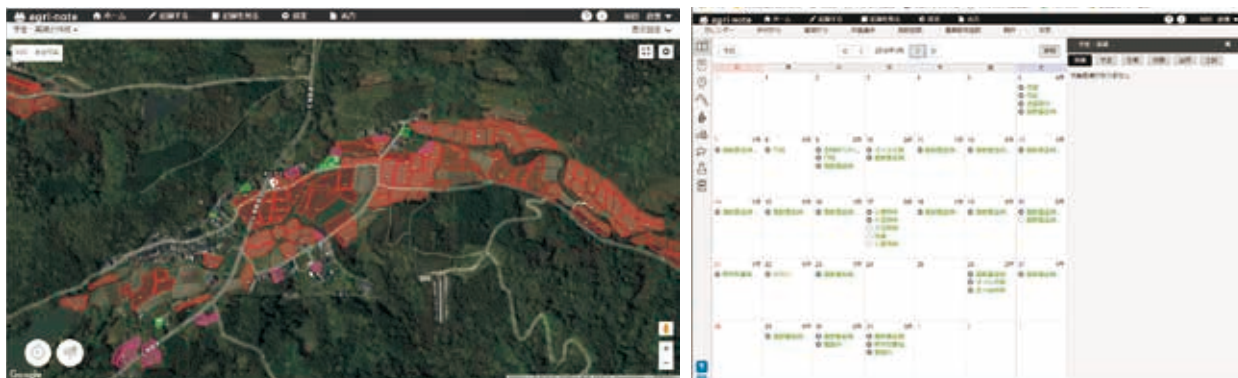


写真 2．ICT活用 アグリノート利用画面

さらに、平成 24 年から園芸品目（にんじん、玉ねぎ）を導入し、年間を通じて切れ目のない農業経営の実現を目指した。翌年から、少量多品目を方針に園芸品目を拡大し、平成 29 年から、地域の離農者からしいたけと銀杏の管理を任せられ、30 年時点で 7 品目の作付けにつながった。

②耕作放棄地の改善と農地中間管理機構の活用

グリーンファーム設立時から集落内にある未整備ほ場約 8ha の耕作を請け負っている。

また、耕作放棄地を再生し、地域特産の「そば」を作付して農地の荒廃を抑制しており、作付けはグリーンファーム設立当初の 11ha から平成 30 年度は 19.3ha と拡大している。その他にも、荒廃竹林を再整備し、たけのこの生産も行っている。

耕作面積の拡大にあわせて、平成 26 年から経営体育成基盤整備事業を活用して排水不良の湿田にシートパイプを導入し、麦・大豆・そばの収量・品質向上のため排水性の改善に努めた。ほ場条件の改善により、新たに 3.4ha で畑作物の作付けが可能となった。

平成 27 年からの引受農地は、農地中間管理機構を活用し、30 年度で 23ha の農地の集積を進め、グリーンファームの経営面積の約 70% が機構を通した農地となった。



写真 3. 耕作放棄地の再生

③市内集落営農法人との連携活動の促進

周辺の集落営農法人との連携を積極的にすすめ、資材の共同購入や農地の管理主体の調整、そばの収穫作業応援等を行っている。令和元年度からは新たな地域特産品目のハトムギの乾燥調製受託と市内の草刈り作業の応援を行う。

さらに、平成 27 年から市内 4 つの集落営農法人と共同で、畦畔へのセンチピードグラスの吹付けを行っている。吹付機械を購入し、畦畔の草刈り作業の省力化のため、毎年 2,000 m²程度の吹付けを行い、平成 30 年度に、畦畔面積約 8,000 m²に吹付けが終了した。夏場の畦畔の草刈りの回数を半分に削減し、センチピードグラスは効果的に雑草の繁茂を押さえるため景観保全にもつながっている。



写真 4. センチピードグラス吹き付け作業

（３）生活・環境整備面における特徴

①女性や高齢者の活躍の場の創出

グリーンファームの設立当初から、生産した米や野菜を集落内の女性有志が加工し、市内イベントでの販売を開始した。

平成 24 年以降は、商品開発や販路開拓を積極的に行うようになった。商品づくりは集落の女性が積極的に発案し、女性の目線に立った商品は好評を得ている。

平成 28 年には県の「地域活力づくり活動支援事業」を活用し、加工所を建設し、同時期に加工部を設立。愛称を「はたむすめ」として、責任者の男性 1 名、部員の女性 6 名で活動を始めた。

平成 29 年からは、収益向上を目指し、部門内で役職を決め、部員一人一人が経営感覚を持って活動に打ち込める体制をとっている。平成 30 年には第 2 加工所を拡充し、もち商品の生産拡大と作業の効率化に努めている。

グリーンファームで生産された「もち米」、「黒大豆」、「しょうが」などを使い、「かきもち」や「白もち」「よもぎもち」の他、乾燥野菜（スライスした「にんじん」や「だいこん」）、「落花生」を主力商品として製造販売している。

代表理事を中心に、加工部全員の営業活動により販路を開拓し、市内外のスーパーや直売所の 9 店舗で販売を行なうほか、市のふるさと納税の返礼品としても活用されている。

さらに、グリーンファームが学校給食の原料出荷をきっかけに導入した野菜の品目が増え、栽培管理を加工部の女性が担っている。これにより、年間を通じた就労が可能となり、集落の女性の雇用や高齢者の生きがいを生んでいる。



写真 5. しょうがの出荷



写真 6. はたむすめ（加工部）

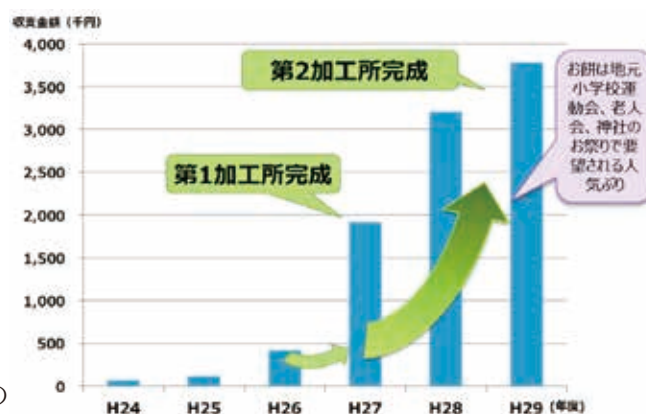


図 5. 加工品売上の推移

②地産地消のつながり拡大

グリーンファームで生産された農産加工品は、小学校の運動会や老人会、三笠山春日神社秋祭等や地域住民のお祝い餅やそば祭等市内のイベントでも販売されており好評である。その中でも、正月の「鏡もち」や「白もち」は地元の一人暮らしの高齢者や若年層を中心に市内外から年々注文が増えている。

さらに、乾燥野菜等の商品は、地元の直売所、スーパー等の販売だけでなく「ふるさと納税」の返礼品としても活用され、にんじん



写真 7. 小学校の運動会で餅まき

や玉ねぎなどの野菜は、学校給食や地域高齢者への宅配弁当の原料にも利用されている。

グリーンファームで生産した飼料用米は、大分県のブランド牛「豊後・米仕上牛」^{ぶんご こめしあげぎゅう}の飼料として供給されている。農地には、牛の堆肥が還元され、農地の維持と環境保全に繋がり、耕畜連携が実現されている。

また、そば産地の主要な法人となり、市内で開催するイベントには「そばもち」等の販売を行なっている。

写真 8. 小餅と鏡餅のチラシ

③地域の環境保全と鳥獣害防止

道路沿いの草刈り、水路の維持、多面的機能交付金の活動組織の設立等、自治会の活動にも参画しながら、地域の環境保全活動に貢献している。また、耕作放棄地の再生や放任竹林の再整備により放棄地発生の防止と景観維持に寄与している。

さらに、シカ、イノシシの鳥獣害防護柵を設置後、防護柵の点検整備を実施し、ほ場周囲の荒廃林の伐採を行うなど被害に遭いにくい環境づくりもすすめている。わな猟免許を新たに取得し、地域内の鳥獣害の被害軽減に尽力している。



写真 9. 地域の環境保全と鳥獣害防止

農林水産大臣賞受賞

さかたに 酒谷地区むらおこし推進協議会

にちなん
(宮崎県日南市)

～自分たちの地域は自分たちの手で～小さな自治 酒谷村～

■地域の沿革と概要

酒谷地区は、日南市の中心部から 10km ほど離れた市の北西部に位置し、昭和 31 年 4 月に旧日南市と合併する以前は酒谷村であった。

周辺を山々に囲まれ、古くから農業と飲肥杉に代表される林業を主産業としてきた中山間地域で、全国棚田百選にも選定された「坂元棚田」が遺るなど、日本の山村の原風景を色濃く残し、四季折々の豊かな顔を持つ地域である。



図 1. 位置図

1. むらづくりの動機・背景

酒谷地区の人口は、昭和 25 年の 5,131 人をピークに減少を続け、30 年後の 55 年には 2,330 人となった。さらに、平成 2 年には 2,000 人を切る 1,830 人となり、高齢化の進行、若者の減少及び酒谷小・中学校の児童・生徒の減少等により地域活力が低下している状況に多くの住民が地区の将来に危機感を持った。

そして、地区の有志が住民総出のむらづくり運動の必要性を感じ、区長会(現自治会長会)などで新たな組織体制づくりに向けて協議を始めた。およそ 1 年間の議論の末、平成 5 年 5 月に地区住民、小中学校長、郵便局長などからなる「酒谷地区むらおこし推進協議会」(以下、「協議会」という。)が発足し、新たなむらづくり運動がスタートした。

この頃は、地区の中央部にある日南ダムが、地域の活性化を図るため地域の創意工夫で利活用を進められる「地域に開かれたダム」に指定(国土交通省)され、また、地区を貫き日南市と都城市を結ぶ国道 222 号線バイパスみやこのじょうが開通して交通量が大幅に増える見込みもあった。さらに、日南市内に道の駅を建設する動きも始まっていた。

協議会は、こうした状況も踏まえつつ、地区にある資源を見つめ直し、新たなイベント・活動を企画・実行することとなった。



写真 1. 坂元棚田

地区データ

- ①所在地：宮崎県日南市
- ③総人口：998 人
- ⑤農家戸数：98 戸

- ②地区の規模：旧村
- ④総世帯数：548 戸
- ⑥主要農産物等：水稻、施設ピーマン、施設きゅうり

※③は H31 年時、④⑤は H27 年時

①朝市

月2回、JAはまゆう酒谷支所の空き駐車場で野菜や加工品などを販売した。この朝市が「生産者の顔が見えて安心」という評価を得て、毎回市内から200～300人の利用客が訪れ、市民の交流の場となるとともに、地域特産物の掘り起こしにもつながった。

このことが、平成9年の常設直売所「酒谷ふるさと特産品センター」の建設、11年の「道の駅酒谷」の認定につながった。

②せせらぎの里酒谷まつり

小布瀬^{おぶせ}の滝は市内に唯一ある滝で、地元自治会等が毎年8月に「小布瀬の滝まつり」を行っていたが、協議会がこれを引き継ぎ、滝、石橋、棚田、日南ダム等を一体的にPRする地区最大のイベントとして開催するようになった。

③環境美化活動

地区の景観美化などを狙い、小中学生も参加しながら、日南ダム周辺、国道222号線沿い、坂元棚田周辺等に開花時期の異なる桜を計画的に植栽した。

2. むらづくりの推進体制

（1）組織体制と会員

明確なむらづくりの視点を持つため、総務・活性化部会、安心・安全部会、生活・環境部会と3つの部会を設け、役割分担をした上で各種活動を行っている。それぞれの構成員の位置づけや組織としてのビジョンを意識することで、スムーズにむらづくり活動を実施することができている。代議員数は96名（平成30年4月1日現在）で、自治会、消防団など多様な機関・団体・組織のメンバーが集まっている。

また、総務・活性化部会において地区住民の意見集約を行うとともに、役員会を毎月開催しており、合意形成・意思決定の仕組みが確立されている。この

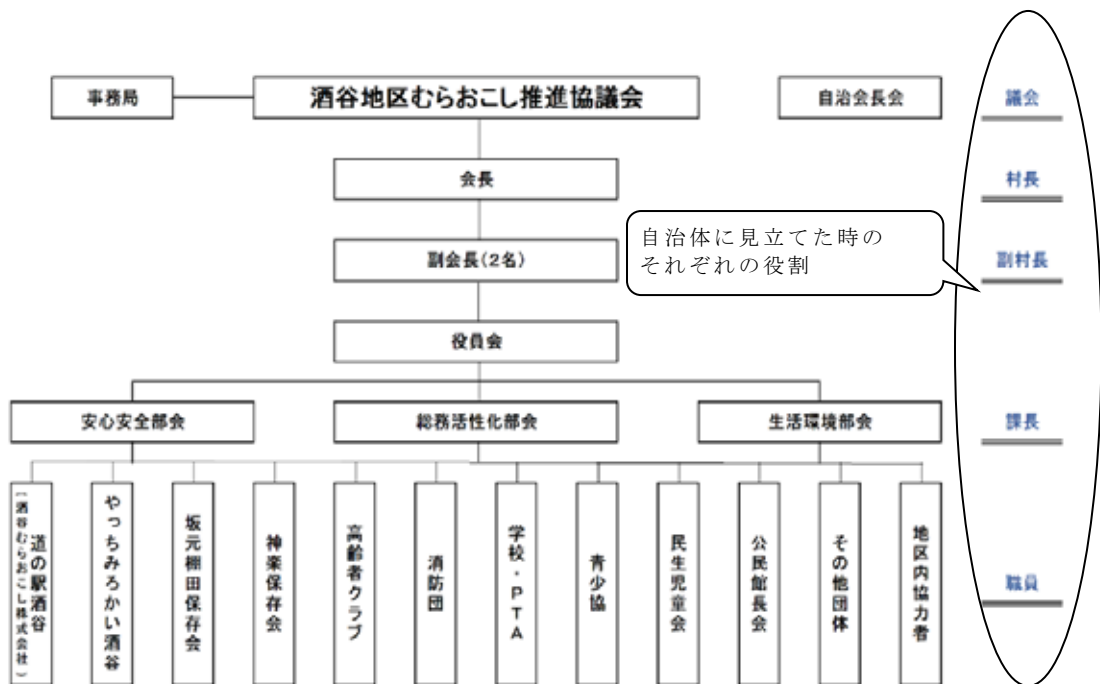


図2. むらづくり推進体制図

ように「酒谷に生まれてよかった。酒谷に住んでよかった。“自信と誇り”の持てる地域にしよう。」という協議会の目的と「自分たちの地域は自分たちで作る」という協議会の活動理念のもと、①意見集約、②意思決定、③各種活動が実践されており、酒谷という小さな地区で「小さな自治」が成り立っている。

【各部会の概要】

	部 会	活 動 内 容
総 部 会 員 9 6 名	総務・活性化部会	地域住民の意見集約や情報発信、地域活性化のための取組などを行う。 ○各種調査 ○計画策定 ○広報誌の発行 ○各種まつり ○伝統文化継承 ○スポーツ大会 ○産業振興 ○高齢者訪問事業
	安心・安全部会	地域住民が安心して暮らせる環境と、一人ひとりが大切にされ、充実した生活ができる環境づくりを目指す。 ○交通安全 ○防犯 ○防災活動 ○災害対策 ○見守り ○子育て ○青少年健全育成 ○高齢者生きがい活動
	生活・環境部会	地域内の公的施設等の保全と、環境美化を推進し、快適で気持ちのよい生活ができる環境づくりを目指す。 ○公共施設の整備・保全 ○ゴミ対策 ○環境保全 ○地域内清掃 ○花いっぱい運動

（２）関連団体との連携・協力

①やっちみろかい酒谷

やっちみろかい酒谷は、協議会の活動をより機動的に実行するために地区の若手が平成６年に組織したグループであり、５月５日には地区のＰＲとこどものお祝いとして、日南ダム堤体上に鯉のぼりを泳がせる「鯉のぼり揚げ」を開催し、毎年多くの観光客が訪れている。

②坂元棚田保存会

坂元集落では坂元棚田を地域の活性化に活用しようと「坂元棚田保存会」を組織し、棚田のＰＲや都市住民との交流を行う「せせらぎの里坂元棚田まつり」を協議会とともに実施している。

③酒谷むらおこし株式会社

道の駅酒谷を管理運営してきた酒谷ふるさと特産品センター管理運営協議会（任意団体）は、利用客や地区住民に対して安定的にサービスを提供しつつ、持続的に事業を展開するため、平成２３年に地区住民が株主となって「酒谷むらおこし株式会社」に改組し、以後同社がその管理運営を担っている。



写真２．道の駅酒谷

（３）自主財源の確保（行政に依存しない財源づくり）

協議会設立時から、地区の全世帯が年間１,２００円ずつ、酒谷むらおこし株式会社が１社で５０万円の協力金を拠出しており、これら協力金の総額は年間１００万円程となっている。

また、平成３０年度からは、地区に残る炭焼きの文化を活かそうと、炭焼窯を手づくりし、炭の製造・販売を始めており、新しい財源として期待されている。

3. むらづくりの特色と優秀性

（１）むらづくりの性格

「自分たちの地域は自分たちでつくる」という姿勢の下で、目的と手段を見定めて活動を継続してきた25年程の長い歴史がある。また、道の駅酒谷等と連携をして経済活動を充実させるとともに、棚田の保全や福祉サービスなどの活動も積極的に取り組んでいる。

（２）農業生産面における特徴

①棚田を活用した酒谷ファンづくり

協議会は、坂元棚田保存会と連携し、美しい風景を遺産として後世に残すとともに、坂元棚田保存活動やグリーンツーリズムを通じて都市農村交流を振興することで、農村地域の活性化に取り組んでいる。

平成 14 年から開始した坂元棚田オーナー制度は、年会費 35,000 円で田植え、石垣の清掃、稲刈り、収穫祭などの体験ができるとともに棚田米 25kg が届く仕組みであり、現在 23 人のオーナーとその家族などが米作りを体験している。なお、年会費 35,000 円のうち 5,000 円は、会員からのご厚意で保存活動の経費として上乗せされたものである。



写真3. 棚田トーチ



写真4. 棚田オーナー制度（稲刈り）

②地元産にこだわった道の駅の運営

道の駅酒谷で販売する農産物は地元産にこだわり、食堂で提供する米は坂元棚田産を中心とし、他の食材も可能な限り地元産を優先している。特に人気商品の「草だんご」は年間2千万円を超える売上で、その原料のよもぎも全て地元産を用いている。平成20年には「みやざき地産地消こだわり食材の店」（みやざき食と農を考える県民会議）として認定された。

利用者人数(人)
売上高(千円)

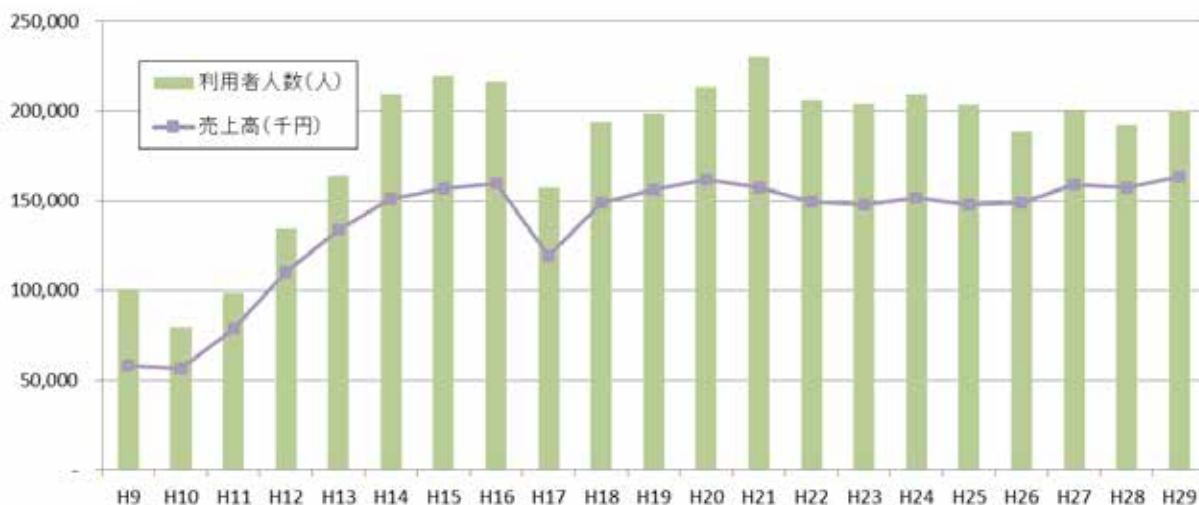


図3. 道の駅酒谷の利用者人数、売上高の推移

こうした取組みにより、道の駅酒谷を目的地とする地区外から多くの利用客を確保しており、年間来客数は約 20 万人、年間売上は約 1 億 6 千万円で推移し、これに係る地区の生産者（約 100 人）の年間総収入も約 4 千万円にのぼっている。



写真5. 名物「草だんご」づくり

③地区に自信と誇りを持った担い手の育成

協議会は、設立時から農作業を通じて農業の大切さを肌で感じてもらうため、また、ふるさとでの思い出づくりにと、酒谷小学校が行う田植祭と収穫祭において、小学生と一緒に田植え、稲刈り、餅つきなどを行ってきた。また、小学生は「緑の少年団」として協議会の環境美化活動に参加している。

酒谷小学校で学び、施設野菜、養鶏などを営むJAはまゆう青年部会員は、「今度は自分たちが」との思いから、小学生と一緒に田植え、稲刈りなどに参画している。

協議会が「酒谷を自信と誇りの持てる地域にしよう」と25年間続けてきた活動は、確実に地域づくりや農業生産活動を担う人材を育てている。

（3）生活・環境整備面における特徴

①各種イベント実施による地域活性化

協議会では、交流人口拡大及び地区住民の活力創造のため様々なイベントを実施している。

なかでも、毎年地区外から約 3,000 人の来客があり、地区最大のイベントである「せせらぎの里 酒谷まつり」は、約 4 ヶ月前から役員会、まつり担当部会である総務・活性化部会、全代議員で構成するまつり実行委員会等を繰り返し行い、ステージイベントの内容などを協議し、まつりを作り上げている。

まつりを通じて酒谷のファンが増え、道の駅酒谷の売り上げが伸び、坂元棚田や小布瀬の滝などをはじめとした観光地への来客増につながっている。



写真6. せせらぎの里酒谷まつり

【協議会が実施する各種イベント】

- ・せせらぎの里酒谷まつり ・坂元棚田まつり ・棚田 3,000 個のトーチ点灯
- ・小布瀬の滝ライトアップ ・日南ダムこいのぼり掲揚 ・コンサート開催
- ・四半的大会 ・注連縄作り ・そば打ち体験 ・体験学習
- ・グランドゴルフ大会 ・収穫祭
- ・大晦日に年越しそば配布（75 歳以上の一人暮らしの方）

②地元に利益を還元する道の駅の体制づくり

道の駅酒谷は、雇用の場としても重要な役割を担っており、オープン当初から「雇用は地元から」という方針で、地区内及び地区出身者を優先して採用している。地元を愛する住民がそれぞれの役割を担い、自らが生活する地域で働き、所得を得て地区に貢献できる喜びが雇用に大きくつながっている。

また、道の駅酒谷のスタッフは、女性駅長を中心にオープン当初から全員が女性であり、女性ならではの感性や前向きな姿勢を遺憾なく発揮し、地域の顔である道の駅の現場を切り盛りしている。

現在、道の駅酒谷のスタッフ 23 人は全て地区居住者及び地区出身者であり、スタッフの給与として約 4 千万円が地区に還元されている。

③高齢者が住み続けられるサービスの提供

酒谷地区は、高齢化率が非常に高く、各集落の半分程度が高齢者世帯であり、高齢者の一人暮らしの世帯も多い。また、空き家も多くなっている。

このため、協議会では青色パトロールカーによる防犯巡回指導を毎週実施している。

また、道の駅酒谷では、見守り活動を兼ねた弁当宅配サービスを平成 26 年度より実施している。はじめは、メニュー、価格、配達日など高齢者が望むものがわからず手探りのスタートだったが、現在は運転免許証を返納した夫婦や身体の不自由な方などに利用されている。また、道の駅酒谷に出す生産物の集荷、販売品の配達、携帯電話の操作方法の相談などにも対応しており、道の駅酒谷が地区に無くてはならないものとなっている。



写真 7. 弁当宅配サービス

④地区で受け継がれてきた伝統芸能等の継承

協議会は「酒谷を自信と誇りの持てる地域にする」活動として、伝統芸能や郷土料理の継承に取り組んでいる。

このため、協議会では、酒谷神楽保存会いわいはらと連携し、酒谷神社及び岩井原神社に伝わる神楽、獅子舞、浦安の舞を継承する活動を行っており、各種まつりや秋祭りでは若者や小中学生を交えて奉納している。

また、道の駅酒谷では、草だんご、あくまき、地こんにゃく、わさび味噌、棚田そばなどの郷土料理を販売するとともに、市内の小学校の児童を対象にした、そば打ちや草だんご作りの体験学習や地域社会学習の受入れを行っている。

そのほか、協議会会員が中心となって活動する女性グループが、地域の食材を使ったメニューの開発や郷土料理伝承のための料理教室などを行っており、最近では若い主婦層の参加も増加傾向にある。



写真 8. 伝統芸能 浦安の舞



写真 9. 体験学習（草だんご）

農林水産大臣賞受賞

やどり はら

宿利原地区公民館

きんこう

（鹿児島県錦江町）

～地域資源の活用による持続力あるむらづくり～

■ 地域の沿革と概要

鹿児島県の大隅半島中南部に位置する錦江町は、平成 17 年大根占町・田代町が合併して誕生した町で、錦江湾に面した海岸地帯、中部高原地帯、国の天然記念物（天然保護区域）に指定されている稲尾岳を含む肝付山地からなり、海、森林、自然環境、伝統文化等地域資源の豊かな町である。

宿利原地区は、錦江町市街地から北東へ 10km、標高 200m の山間部に位置し、10 集落で構成されている。夏場は葉たばこ、さつまいも、生姜等の生産、冬場は加工用大根、高菜の生産など年間を通して農業の盛んな地区である。

農業生産が盛んな宿利原地区は、かつて農地を自力造成し、水を育み、団地化と営農体系の見直しを図りながら規模拡大を図ってきた自立自興の開拓魂を持つまとまりのある地区である。



図 1. 位置図

1. むらづくりの動機、背景

＜中学校の跡地活用へ向けたむらづくり＞

昭和 30 年頃の高度経済成長期、人口の増加に伴い、地区内の小中学校のグラウンド整備や校舎改修が始まった。昭和 61 年には、農産加工室を備えた施設「農村婦人の家」を整備、各種基盤整備事業による農地整備、農村公園の設置など地区を取り巻く環境整備が図られ、むらづくり活動も活発に展開された。

しかし、以降は、住民の多くが農業を離れ、都市部へ移り、急速な人口減少による過疎化が進行した。地区に 1 校ある宿利原小学校の児童数は、昭和 35 年の 351 名をピークに減少し、平成 28 年には 11 名となった。また、平成 17 年の市町村合併により町内の中学校の統廃合が進み、20 年 3 月には宿利原中学校が閉校とな



写真 1. 大根やぐらからの壮大な農村景観

地区データ

- ①所在地：鹿児島県肝属郡錦江町
- ③総人口：449 人
- ⑤農家戸数：68 戸

※③は H31 年時、④⑤は 27 年時

- ②地区の規模：集落の集合体（10 集落）
- ④総世帯数：241 戸
- ⑥主要農産物等：加工用大根、さつまいも、養豚

った。現在、地区の高齢化率は 55.7%と錦江町内で最も少子高齢化が進んでいる。

中学校の閉校により、地区の中心にある旧中学校施設の活用を宿利原地区公民館で考えていくこととなり、平成 21 年に「跡地活用検討委員会」が設立された。各自治会長や P T A、農業委員、さらに役場職員や関東方面の大学からのインターン生も交え、幅広く意見交換や情報交換を行い、また住民を対象にアンケート調査や聞き取りを行いながら、中学校の跡地活用を含めたむらづくりの目標や地区の将来ビジョンを策定した。

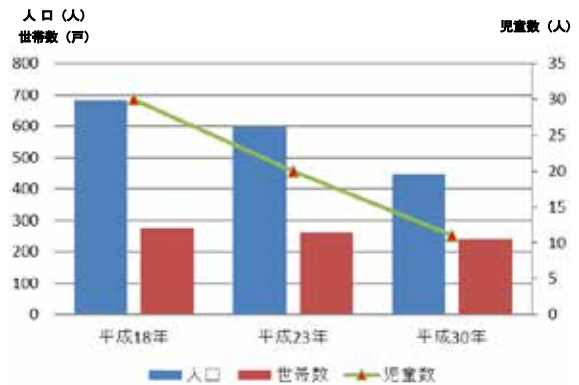


図2. 人口・世帯数・児童数の推移

将来ビジョンの3つの基本理念は「①地域の学校として学び・交流の場づくり、②地域に自信と誇りを持ち、魅力ある楽しい活動、③地域の魅力を発揮し、持続力ある活動」。住民はこれらの理念のもと作成した活動計画を実行に移し、地区の活性化へ向けて取り組んでいる。

2. むらづくりの推進体制

（1）宿利原地区公民館

宿利原地区公民館（以下「地区公民館」という。）は、10 集落（自治会）で構成されている。執行部は館長、副館長、会計、公民館主事（役場職員）で構成され、役員会により事業運営や各種行事の企画と検討、調整を行っている。

また、執行部の他、総務部、産業部、文化部、体育部、女性部、長寿会部、子ども育成部の7 専門部会を構成し、部会に属する各種事業運営や実施に向けての詳細を検討している。

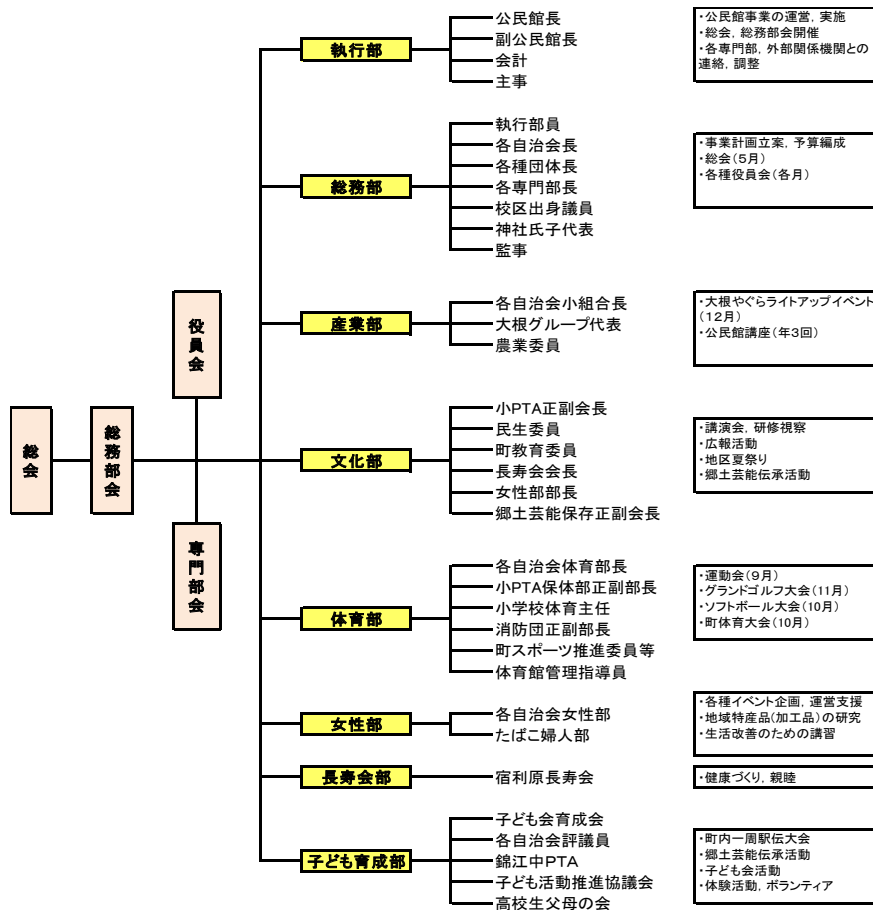
＜中学校跡地活用と地区将来ビジョン検討＞

（2）中学校跡地活用検討委員会（実践組織）

委員会は、10 自治会長と地区公民館が所属しており、役場、インターン生も加わり、地区公民館が主体となって、中学校の跡地活用による地域活性化方策を検討している。

（3）多様な主体との連携

小規模小学校でも、子どもたちに様々な経験や体験をさせ、今後も地区の活動拠点として学校を存続させていきたいという住民の願いから、N P O（錦江・まちむらネットワーク）や鹿児島、関東の大学生（インターン事業を活用）と地区公民館・地域が一体となり、寺子屋塾、土曜授業や夏休みを利用した宿題合宿等様々な交流を支援している。昭和 50 年から続いている校区一周駅伝大会では、少子高齢化等により存続が危ぶまれていたが、現在、N P Oや大学生、地区住民が一体となり、地区で作ったもち米で雑煮を振る舞うなど住民との交流も加え、大会を盛り上げている。



※役員会: 公民館長、副公民館長、主事、会計、各専門部長

図3. むらづくり推進体制図



図4. 多様な主体との連携によるむらづくり



写真2. 大学生による夏の寺子屋塾



写真3. 小学校米作り体験(インターン生・大学生)

3. むらづくりの特色と優秀性

（１）むらづくりの性格

住民は高齢化が急速に浸透している地区に危機感を感じたことから、地区の将来像をしっかりと見据えた持続力ある活動をしていくために、地区公民館が主体となりながら学校、大学生、農業関係者、NPO等と連携をとり、足もとの地域資源を効果的に活用して宿利原のファンづくりと農業の活性化につなげている。

平成 21 年度から継続開催している大根やぐらのイベントは、地域内外から地域住民の約 3 倍の観光客が訪れるとともに、県内外の大学生がイベントに合わせて錦江町内で民泊を行うなど都市農村交流活動を通じた地域活性化が図られている。

（２）農業生産面における特徴

①住民の総意に基づく地域営農の基盤づくり

地区は、地形的に急峻なことから、河川の発達も乏しく、干ばつ被害を受けやすい条件下で、住民は営農における水利用の面でも苦勞し、でん粉用さつまいも主体の農業を営んできた。

昭和 40 年から 60 年にかけての町単、県単各種基盤整備事業の導入により、各品目毎の生産組織で今後の営農のあり方を何度となく話し合う機会を持った。所得向上へ向けた営農体系、栽培技術等の検討により、品質の高い葉たばこ生産が進むとともに、「葉たばこ＋加工用大根」の営農体系を主体として経営の規模拡大が図られてきた。

葉たばこは、平成 24 年の廃作奨励により作付けが減少し、さつまいも、野菜、飼料作物への品目転換が進んだ。さらに、昭和 61 年から平成 14 年に導入された国営総合農地開発事業により、農地造成や農業用排水施設整備が進み、大型機械導入による省力化、農業経営の安定化が図られている。

②加工用大根の産地づくり

地区には、大正 3 年の桜島噴火による移住者から加工用大根（干し大根）の栽培方法が伝わったと言われている。寒風等の気象条件を生かした加工用大根の生産地帯として産地づくりを行ってきたが、重量野菜である上、高齢化が進み、収穫作業等の労働力不足が生じていた。地区の生産者で話し合い、掘取機を共同利用することにより、労働力不足が解消され、コスト低減

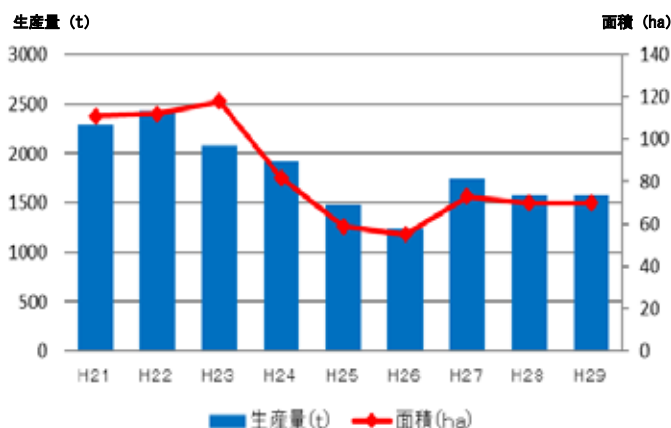


図 5. 加工用大根作付面積・生産量の推移



写真 4. 家族も総出、地域で加工用大根の収穫作業

と適期収穫が図られ、一戸当たりの経営面積の拡大が進み、県内でも有数の産地形成につながった。

畑地かんがい整備により、収量の向上や作型の分散が可能となり、漬物業者からの引き合いもあり県内でも加工用大根（干し大根）の主要産地（67ha・50戸）となっている。現在、品質の高さがかわれ、県内外漬物業者5企業に出荷している。

（３）生活・環境整備面における特徴

①学校跡地を拠点とした「学び・交流の場づくり」

跡地活用検討委員会では、旧宿利原中学校の跡地活用へ向けた住民アンケート調査結果を反映させ、地区住民が講師となって公民館講座を開設するなど、地区公民館が主体となって、学校跡地を拠点にした「学び・交流の場づくり」に取り組んでいる。

また、地区公民館女性部を再編し、若手が加入しやすい環境を整備した。さらに、公民館講座を通して、高齢者の持つ食の技術が若い世代に伝承されるなど、次世代へつなぐ持続力ある活動を展開している。



写真5. 公民館講座～男の料理教室（鶏のさばき方）



写真6. 公民館講座～皆で健康づくり（トレッキング）

②干し大根産地に自身と誇りを～産地からの情報発信と交流

大根生産者の高齢化、担い手の減少は避けられない。産地としての認知度向上と生産者の自信と誇りを取り戻し、将来の担い手育成や魅力ある産業としての農業のPRを図るため、「大根やぐら」を活用したイベントを開催してい

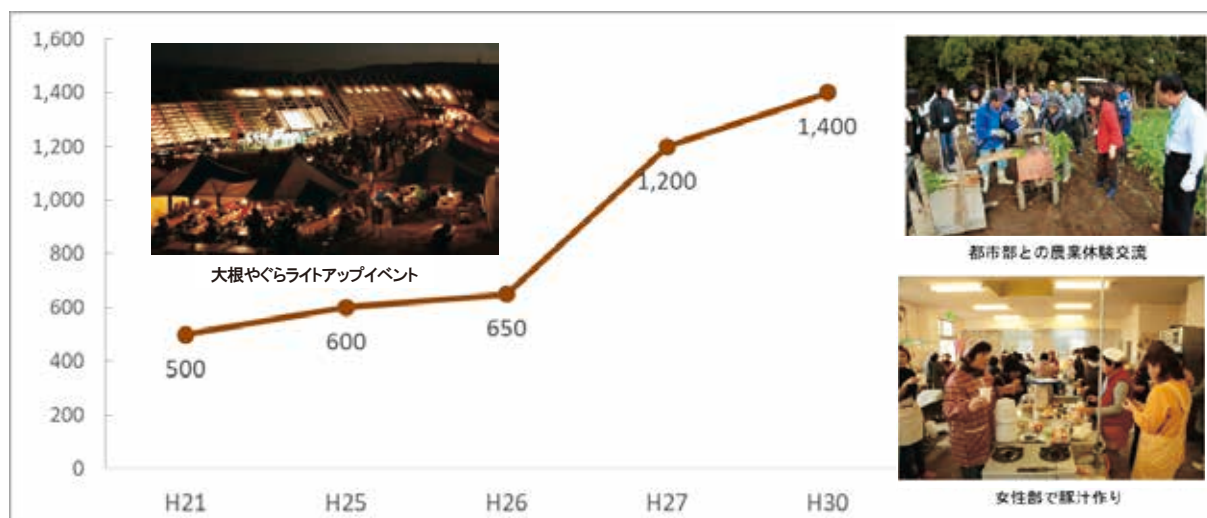


図6. 大根やぐらライトアップイベント来場者数

る。大根生産者が実行委員会の中心となり、企画・運営を担っている。

県内外から観光客や写真愛好家など約 1,400 人が訪れる「大根やぐらライトアップイベント」は、地区住民が一体となり協力し、現在は N P O 法人や大学、小学校、関連企業（干し大根契約先の漬物会社等）と幅広く連携して取り組んでおり、交流人口の増加につながっている。イベントは平成 21 年以降 10 年間継続されており、ライトアップされた大根やぐらは地区の風物詩として定着化している。地域全体で干し大根産地を P R する気運が高まっている。

さらに、地区公民館でも、自主財源の確保へ向けて、干し大根を作り、販売している。大根やぐら実行委員会は、子どもたちへの食農教育の一環として、地元イラストレーターと連携し、干し大根が地域に伝わった歴史を絵本化し、出版、錦江町内の直売所等で販売するなど農業・農村の魅力を広く情報発信している。



写真7. 大根ストーリーで絵本を制作、販売



写真8. 公民館で干し大根を栽培、自主財源づくり

③地域の魅力を発揮し、持続力ある活動

地区公民館女性部は、鹿児島市内の短期大学と連携して、地域で生産する干し大根を活用し、昔から地域で食べられてきた「干し大根漬け」の伝統的な味付けを再現、幾度となく試作を繰り返し、新たな地域特産品づくりに取り組んだ。



写真9. 短大生と連携、特産品開発の検討
（公民館女性部）



写真10. 郷土の味を再現、鹿児島市内でもPR販売

使いやすいパッケージや現代風にアレンジしたラベルを制作し、「宿利原からのおくりもの」と称し、誰でも簡単に干し大根の漬物ができる「たれ」を商品化した。商品は、大根やぐらのイベントや直売所等で販売しており、大根産地の P R にもつながっている。

九州農政局長賞受賞 げんきむら さいかい元気村協議会 さいかい (長崎県西海市)

～農的暮らし体験による西海市の魅力発信～

■地域の沿革と概要

西海市は、長崎県西彼杵半島の北部に位置し、長崎市と佐世保市の二つの都市に挟まれた人口2万8千人の農山漁村である。平成17年に西海町、大瀬戸町、西彼町、大島町及び崎戸町の5町が合併して誕生した。

山と海、豊かな自然に恵まれ、農業と漁業を主な産業とし、昔ながらの暮らしが息づいている地域である。

特産品はみかん、ゆでぼし大根、蛸、伊勢えびなど山海の幸に恵まれている。

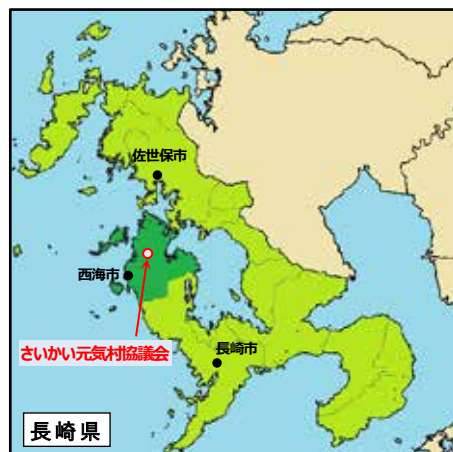


図1. 位置図

1. むらづくりの動機、背景

合併を前にした当時の西海町では、全町公園化構想のもとグリーン・ツーリズムを推進し、平成13年から「のら体験工房さいかい」が多彩な農業・自然体験を提供していた。

しかしながら、地域では農家の高齢化や後継者・労働力不足、それに伴う耕作放棄地の増加などにより、地域の活力低下が懸念されていた。そこで、ふるさとを元気にするために、まちづくりに興味がある住民が集って「西海の元気の素をみつけよう会」設立準備会を平成19年7月に発足し、ワークショップを重ね、20年3月に「さいかい元気づくりプラン」を策定した。そして、地域活性化に取り組んでいる西海市内の8団体が、同プランを実現化するため、「さいかい元気村協議会」（以下「協議会」という。）を同年6月に設立した。

協議会は、2.2haの遊休みかん園を利用して、自然との調和を大事にした持続可能な農的暮らしの体験拠点「エコヴィレッジさいかい元気村」を平成21年8月に開村し、「むらびと」（会員）を募集し、野良仕事やエコハウスづくりなどの体験プログラムの提供を開始した。



写真1. 冬の風物詩ゆでぼし大根の干場

地区データ（西海市）

- ①所在地：長崎県西海市
- ③総人口：27,982人
- ⑤農家戸数：1,647戸

- ②地区の規模：市
- ④総世帯数：12,641戸
- ⑥主要農産物等：水稻、みかん、いちご

※③④はH31年時、⑤はH27年時

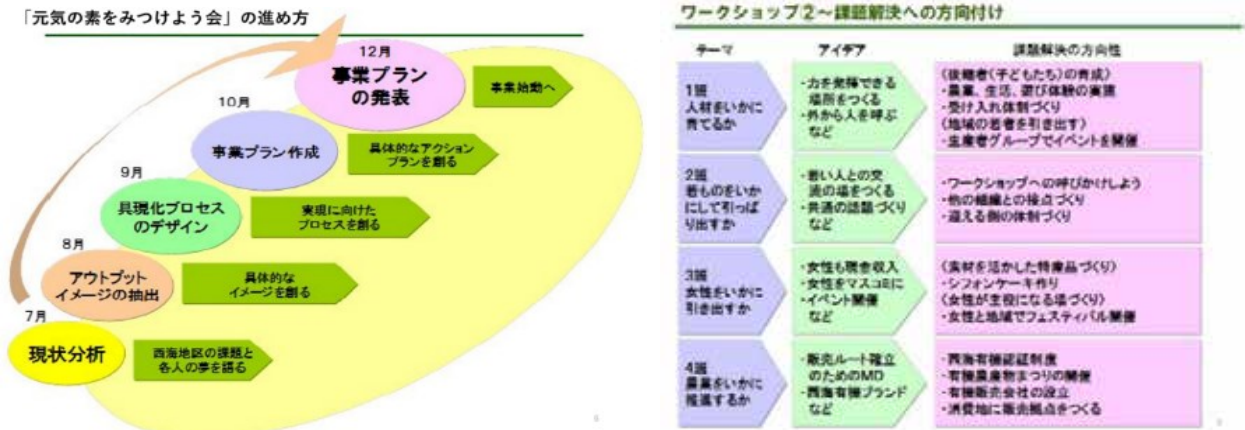


図 2. 「さいかい元気づくりプラン」策定プロセス



図 3. さいかい元気村構想

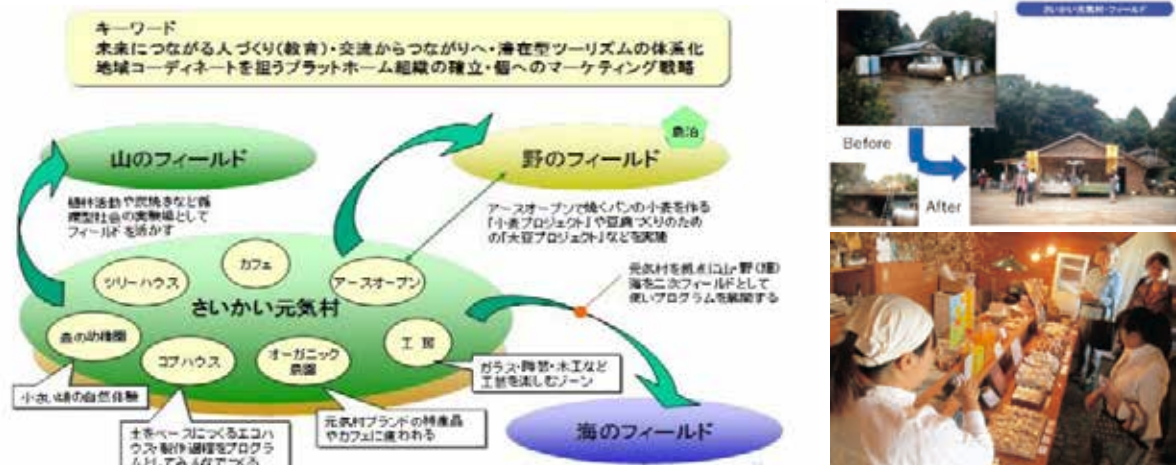


図4. さいかい元気村 展開イメージ

写真2. コアハウス（上）と村の菓子工房

2. むらづくりの推進体制

現在、協議会はエコヴィレッジさいかい元気村（以下「エコヴィレッジ」という。）、村の菓子工房、西海市、NPO法人西海市観光協会の4団体で構成されている。

平成 28 年には、「さいかいガイドの会」と「山と海の郷さいかい」を設立し、エコヴィレッジでの自然体験に加えて、西海市全域で宿泊体験を受け入れる体制を整えている。

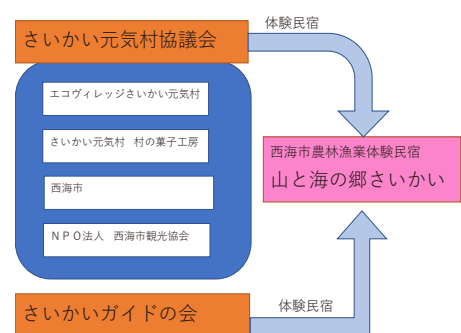


図5. むらづくり推進体制図

協議会や山と海の郷さいかいでは、女性が構成員の半数を占め、体験メニューの提供時や体験民宿の事務局等として積極的に参画し大いに活躍している。

3. むらづくりの特色と優秀性

（１）むらづくりの性格

協議会が取り組むグリーン・ツーリズムは、地域の資源を活かした自然体験や農的暮らし体験の提供を通して、生きる力をつけることを目的としており、大学と連携した体験メニューの開発、さいかいガイドの会と連携した体験民宿の普及活動等も行っている。

（２）農業生産面における特徴

①農業体験作物の栽培による遊休農地の有効活用

エコヴィレッジでは、みかん、栗、シイタケ、さつまいも等の野菜を農業体験の提供をとおして生産している。特に、ジャンボピーナツは市内のコスモス祭りやハロウィンに出店し人気商品になっている。

②地域農産物を活用した特産品開発（さいかい元気村の菓子工房）

村の菓子工房は、「道の駅さいかい みかんドーム」に隣接し、西海市の豊かな自然や魅力をお菓子に乗せて伝えたいとの想いで、手作りの焼き菓子等を開発し販売している。原材料は、西海市産の卵、野菜、果物、五島灘の塩であり、そのほか九州産の小麦粉、米粉、喜界島産粗糖など、可能な限り地元農産物を活用している。

<みかんシフォンケーキ>

西海市特産のみかんをたっぷり使ったシフォンケーキ
第41回長崎県特産品新作展 奨励賞受賞（平成22年）

<やさいのカリカリ>

卵、乳製品、小麦粉、白砂糖を使用していないノンフライの
カリカリした食感の焼き菓子（6種類）
第46回長崎県特産品新作展 最優秀賞受賞（平成27年3月）
長崎デザインアワード2016 長崎賞受賞



写真3. みかんのシフォンケーキ

（３）生活・環境整備面における特徴

①むらづくり体験による交流人口の拡大

エコヴィレッジでは、農的暮らしと、生きる力をつける体験ができる村の建設からはじめており、野良仕事やエコハウスづくり、アースオープンづくりといったプログラム活動によって、むらづくりそのものを体験するとともに、地域の資源を活かした季節ごとの多様な体験メニューを開発してきた。開村当

<むらづくりのプログラム>

○マンスリーむらづくり

毎月第3日曜日に「むらびと」が元気村に集まり、エコハウス建設、アースオープン（石窯）、ツリーハウス、自然農園づくりなどを実施。

○むらづくり WORK

季節に応じた、農産加工品づくり体験など。

○オープンヴィレッジ

むらびと限定で自由にのんびり過ごしてもらう。



写真4. ツリーハウス

初は「むらびと」会員を募集し、平成21年には61組134人となり、むらづくりのプログラムを実践してきた。（現在、「むらびと」の募集はしていない。）

②多彩な体験メニュー・イベントによる交流人口の増加

エコヴィレッジは、佐世保市にある大学の観光分野の授業において体験フィールドとして活用されおり、学生のアイデアなどを参考に体験メニューを開発している。また、地元の子どもたちに、ふるさとのすばらしさの発見や愛着醸成につなげるため、市内の幼稚園や小学生に対する自然体験、農業体験メニューの開発にも力を入れている。

そして、SNSを活用し積極的に情報発信され集客に努め、土日、祝日に開村して季節に応じた多くの田舎暮らし体験メニューを実施している。

<体験メニュー>

西海産の野菜をたっぷり載せた自分だけの石釜ピザづくり、薪で沸かす五右衛門風呂体験
ツリーハウスやスライダーなど自然を活かした遊び場、野菜作り、しいたけ駒うち・収穫
日本ミツバチの養蜂、炭焼き、リースづくり、タケノコ堀り、山菜採り、木の実や果実を使った菓子作り
虫捕り、木工・竹細工、みかん狩り、芋ほり、栗拾い、ぬかど炊飯、ちまきづくり、ほうきづくり 等

<交流体験イベントの開催>

○日本蜜蜂養蜂講習会(7月)

インド式単枠式重箱式巣箱の製作、蜂群分割方法、移虫による女王蜂生産、重箱式巣箱からの採蜜体験など。

○Beetle Camp(8月)

夏休みにビートル・キャンプを開催し、伊佐の浦溪流でのテナガエビ捕り、川遊び、カブトムシ捕り、カブトムシ相撲、そうめん流し、元気村野菜や西海産の豚肉などを使用したバーベキューなど、小学生50名の参加で開催。

○秋の元気村まつり(10月)

みかん狩り、芋ほり、かまどで炊いた新米ご飯と元気鍋等

○門松づくり、リースづくり体験(12月)

50cm程度のかわいい門松づくり、正月用しめ縄リースづくり体験を実施している。

○ひょっこり元気村(3月)

毎年3月に「ひょっこり元気村」を開催し、地域の各種団体の体験や県内外の団体の出店により、田舎暮らしを体験してもらうイベントを実施。（来場者 H29:800人）



写真5. ビートル・キャンプ



写真6. 門松づくり体験

③西海市全域への体験民宿の拡大による交流人口の増加

山と海の郷さいかいの取組もあり、近年では県外、市外から西海市に移住し、体験民宿を開業する方も数軒出てきており、民宿数が増加し（平成31年1月現在32軒。うち協議会所属29軒）、修学旅行生や一般の宿泊者数が大幅に増加している。これらの活動は、テレビやラジオでも頻繁に取り上げられ、西海市のPR並びに交流人口の増加にも寄与している。平成30年度の延べ宿泊者数は、修学旅行生や中国人旅行者等を含め、600名を突破している。

協議会に加入している体験民宿は、独自の体験メニューとエコヴィレッジの体験メニューを連携して実施している。

表1. 体験者数、宿泊者数の実績 (人)

	平成25年度	平成30年度
体験者数	1,200	800
宿泊者数 (延べ)	35	609

「豊かなむらづくり全国表彰事業」と「農林水産祭」

■豊かなむらづくり全国表彰事業

本事業は、農山漁村における集落、校区、市町村等を活動範囲とする団体の農林水産業を核とした生活・文化等を含む幅広い地域活動を対象に、農林水産省及び日本農林漁業振興会が昭和54年度から実施しています。

優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行うことにより、むらづくりの全国的な展開を助長し、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図り、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的としています。

■農林水産祭

農林水産祭は、農林水産省及び日本農林漁業振興会が、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業の技術改善及び経営発展の意欲の高揚を図るため、国民的な祭典として昭和37年から毎年11月23日の勤労感謝の日を中心に開催しています。

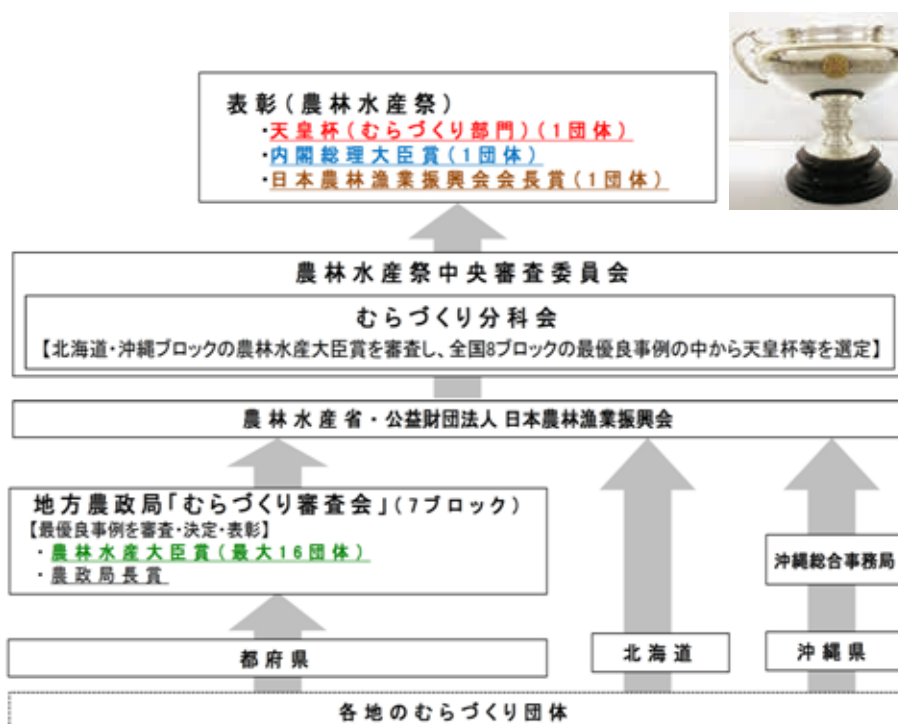
毎年、全国各地の農林水産関係団体が農林水産祭参加行事として開催する約310に及ぶ農林水産物の品評会・コンクール等において農林水産大臣賞を受賞した者の中から、農林水産祭中央審査委員会が7部門（農産・蚕糸、園芸、畜産、林産、水産、多角化経営、むらづくり）の天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞を選定しています。

むらづくり部門は、「豊かなむらづくり全国表彰事業」において選定された農林水産大臣賞受賞団体のなかから天皇杯等が選定されます。

■審査・表彰の流れ

都道府県知事からの推薦を受けた団体について、地方農政局に設けた「むらづくり審査会」において、農林水産大臣賞及び地方農政局長賞を選定します。

さらに、農林水産大臣賞のうち優良な団体について、農林水産祭中央審査委員会で天皇杯等3賞の選定を行います。



天皇杯(左)と式典の様子



審査会の様子(上下)

むらづくり部門天皇杯等受賞団体一覧表

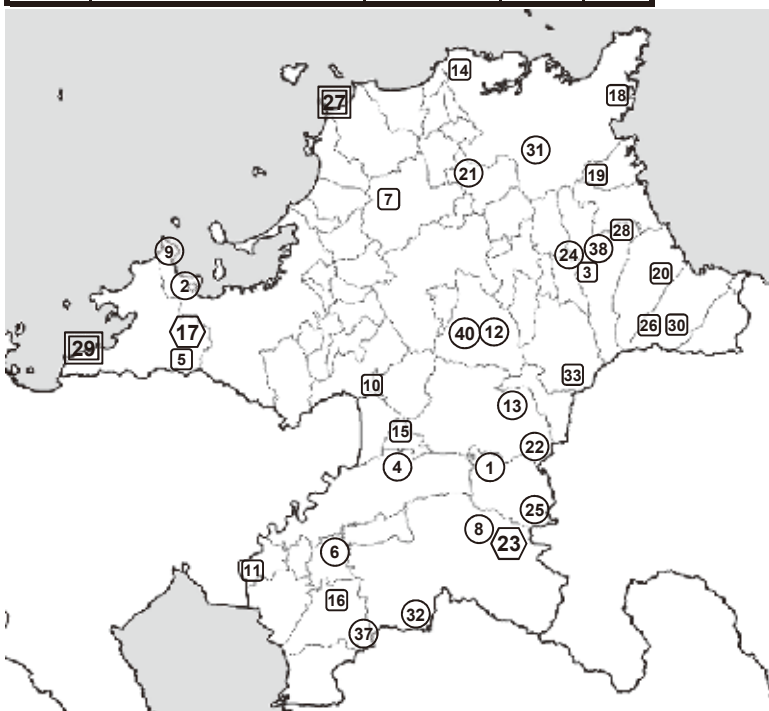
年度	天皇杯	内閣総理大臣賞	日本農林漁業振興会会長賞
昭和54年度	新しいむらづくり推進委員会 (愛媛県伊方町)	根小屋集落連合会 (秋田県北秋田市)	—
55年度	妻生集落 (鹿児島県屋久島町)	古見をよくする会 (岡山県真庭市)	—
56年度	梓山集落 (長野県川上村)	松神集落 (鳥取県北栄町)	—
57年度	姥屋敷集落 (岩手県滝沢村)	野田区 (愛知県田原市)	—
58年度	東部地区振興協議会 (山形県小国町)	新しいむらづくり推進会議 (栃木県那須塩原市)	—
59年度	玖珠町山田地区 (大分県玖珠町)	広船部落会 (青森県平川市)	—
60年度	飯田集落 (島根県益田市)	荷軽部落会 (岩手県久慈市)	—
61年度	大木区 (愛知県豊川市)	小串自治会 (長崎県新上五島町)	—
62年度	清助新田むらづくり委員会 (山形県寒河江市)	八千代町コミュニティー推進委員会 (茨城県八千代町)	—
63年度	諸塚村自治公民館連絡協議会 (宮崎県諸塚村)	円城寺地区 (滋賀県愛荘町)	両向自治会 (岩手県住田町)
平成元年度	熊地区活性化推進協議会 (静岡県浜松市)	七軒地域づくり推進協議会 (山形県大江町)	浅川生活環境改善実行委員会 (徳島県海陽町)
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会 (鹿児島県南九州市)	大原地区 (鳥取県倉吉市)	水と緑の村づくり推進会議 (福井県大野市)
3年度	岩戸村づくり実行委員会 (長崎県雲仙市)	福釜町内会 (愛知県安城市)	下帯島部落会 (岩手県洋野町)
4年度	国頭むらづくり委員会 (鹿児島県和泊町)	小郷区 (岐阜県中津川市)	琴浦集落 (新潟県佐渡市)
5年度	和光地区自治会 (岩手県金ヶ崎町)	琵琶池村づくり推進協議会 (栃木県大田原市)	大見集落 (熊本県宇城市)
6年度	大塚むらづくり委員会 (鹿児島県枕崎市)	西塩沢農村整備促進委員会 (長野県立科町)	森藤むらづくり推進協議会 (徳島県吉野川市)
7年度	三隅町上地区発展対策協議会 (山口県長門市)	新怡土むらづくり推進協議会 (福岡県糸島市)	四郷自治振興協議会 (和歌山県かつらぎ町)
8年度	秋津野塾 (和歌山県田辺市)	土呂部地区水芭蕉の郷づくり推進委員会 (栃木県日光市)	菊永むらづくり推進委員会 (鹿児島県南九州市)
9年度	南波多町農業振興協議会 (佐賀県伊万里市)	大井平集落 (新潟県津南町)	大和むらづくり会議 (鳥取県鳥取市)
10年度	上場自治公民館 (鹿児島県出水市)	(農事組合法人) 大甘野営農組合 (京都府亀岡市)	蒔田むらづくり推進協議会 (青森県五所川原市)
11年度	石川郷中 (秋田県八峰町)	(農業生産法人、有限会社) 農業公園信貴山のど か村(奈良県三郷町)	西与賀地域実践協議会 (佐賀県佐賀市)
12年度	正名字 (鹿児島県知多町)	中石自治会 (秋田県男鹿市)	常吉村づくり委員会 (京都府京丹後市)
13年度	仁保地域開発協議会 (山口県山口市)	星野村農業・農村を考える会 (福岡県八女市)	舞岡ふるさと村推進協議会 (神奈川県横浜市)
14年度	大井沢区 (山形県西川町)	夢ランド十町 (熊本県和水町)	一本自治振興区 (広島県庄原市)
15年度	綾織町地域づくり連絡協議会 (岩手県遠野市)	小川区 (岐阜県郡上市)	豊永開発振興会 (岡山県新見市)
16年度	松本集落 (大分県宇佐市)	農事組合法人いくみ (静岡県島田市)	上鹿妻第一地区協同組合 (岩手県盛岡市)
17年度	渡慶次集落 (沖縄県読谷村)	十和村おかみさん市 (高知県四万十町)	あんずの里市利用組合 (福岡県福津市)
18年度	ふき活性化協議会 (大分県豊後高田市)	共栄地区を良くする会 (和歌山県印南町)	中村集落 (秋田県横手市)
19年度	伊座川の未来を考える推進協議会 (徳島県美波町)	古座川ゆず井の里 (和歌山県古座川町)	福吉地域づくり推進協議会 (福岡県糸島市)
20年度	櫛池地区農業振興会 (新潟県上越市)	田沢湖牛銘柄確立推進組合 (秋田県仙北市)	川内野集落 (佐賀県伊万里市)
21年度	小城町農産物直売所「はたるの郷」 (佐賀県小城市)	喜屋武集落 (沖縄県糸満市)	槻之屋振興会 (島根県雲南市)
22年度	下里農地・水・環境向上対策委員会 (埼玉県小川町)	大野ヶ原開拓組合 (愛媛県西予市)	特定非営利活動法人かまえブルーーツリズム研究 会(大分県佐伯市)
23年度	農事組合法人宮守川上流生産組合 (岩手県遠野市)	奥能登春蘭の里実行委員会 (石川県能登町)	久富木区公民館 (鹿児島県さつま町)
24年度	浄門の里づくり協議会 (岩手県二戸市)	NPO法人 とうもんの会 (静岡県掛川市)	現和校区 (鹿児島県西之表市)
25年度	田代自治会 (宮崎県えびの市)	農事組合法人ファーム大島 (富山県射水市)	波瀬むらづくり協議会 (三重県松阪市)
26年度	自得地区環境保全会 (青森県弘前市)	染ヶ岡地区環境保全協議会 (宮崎県高鍋町)	宮地集落 (岐阜県郡上市)
27年度	三芳町川越いも振興会 (埼玉県三芳町)	須佐地区一本釣船団 (山口県萩市)	農事組合法人南檜垣営農組合 (奈良県天理市)
28年度	地域共同組合無茶々園 (愛媛県西予市)	大野地区公民館 (鹿児島県垂水市)	ゆかい村風間浦鮫鱈ブランド戦略会議 (青森県風間浦村)
29年度	阿室校区活性化対策委員会 (鹿児島県宇検村)	からり直売所出荷者運営協議会 (愛媛県内子町)	特定非営利活動法人ゆうきの里東和ふるさとづくり 協議会(福島県二本松市)
30年度	本寺地区地域づくり推進協議会 (岩手県一関市)	特定非営利活動法人ゆうきハートネット (岐阜県白川町)	中津川区公民館 (鹿児島県さつま町)
令和元年度	西江上区 (沖縄県伊江村)	一般社団法人竹田文化共栄会 (福井県坂井市)	由良地域協議会「ゆらまちつ戦略会議」 (山形県鶴岡市)

注1:むらづくり部門の日本農林漁業振興会会長賞は昭和63年度に新設

注2:太字・着色は九州の受賞団体

受賞団体一覧表（福岡県）

年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	末石集落	うきは市（吉井町）	農	①	12年度	杷木町農林業等総合振興対策協議会	朝倉市（杷木町）	農	②
55年度	元岡地区	福岡市	農	②	13年度	星野村農業・農村を考える会	八女市（星野村）	内・農	②3
56年度	犀川町崎山区	みやこ町（犀川町）		3	14年度	赤村特産物センター運営協議会	赤村	農	②4
57年度	住みよい弓削をつくる会	久留米市（北野町）	農	④	15年度	小塩んホテルの里づくり協議会	うきは市（浮羽町）	農	②5
58年度	雷山地区	糸島市（前原市）		5	16年度	岩屋地区活性化協議会	豊前市		26
59年度	前津地区	筑後市	農	⑥	17年度	あんずの里市利用組合	福津市（津屋崎町）	振・農	②7
60年度	日吉地区	宮若市（若宮町）		7	18年度	豊津町営農生産組合	みやこ町（豊津町）		28
61年度	棕谷地区	八女市（星野村）	農	⑧	19年度	福吉地域づくり推進協議会	糸島市（二丈町）	振・農	②9
62年度	西浦地区	福岡市	農	⑨	20年度	合河ゆず祭り実行委員会	豊前市		30
63年度	西小田宮農組合	筑紫野市		10	21年度	合馬校区まちづくり協議会地域振興部会	北九州市	農	③1
平成元年度	紅粉屋地区村づくり推進協議会	大川市		11	22年度	松尾百笑村	八女市（立花町）	農	③2
2年度	宮小路果樹組合	嘉麻市（嘉穂町）	農	⑫	23年度	上津野村づくり推進協議会	添田町		33
3年度	高木むらおこし対策協議会	朝倉市（甘木市）	農	⑬	24年度	—	—	—	—
4年度	有毛地区	北九州市		14	25年度	—	—	—	—
5年度	富田区	大刀洗町		15	26年度	—	—	—	—
6年度	瀬高町地域農業振興協議会	みやま市（瀬高町）		16	27年度	伍位軒集落	みやま市（山川町）	農	③7
7年度	新怡土むらづくり推進協議会	糸島市（前原市）	内・農	⑬7	28年度	くまわり会	みやこ町（犀川町）	農	③8
8年度	猿喰地区	北九州市		18	29年度	—	—	—	—
9年度	等覚寺地区	苅田町		19	30年度	小野谷行政区	嘉麻市（嘉穂町）	農	④0
10年度	いわまる共和国	築上町（椎田町）		20	令和元年度	—	—	—	—
11年度	新入農業農村活性化実行委員会	直方市	農	②1					



受賞団体数	36
天皇杯受賞	0
内閣総理大臣賞受賞	2
日本農林漁業振興会会長賞受賞	2
農林水産大臣賞受賞	21
九州農政局長賞受賞	15

注1：所在市町村は現在の市町村名。

（ ）は、平成11年以降に市町村合併があった場合の団体の所在地の旧市町村名。

注2：受賞区分の表記区分

天=天皇杯 内=内閣総理大臣賞

振=日本農林漁業振興会会長賞

農=農林水産大臣賞 無印=九州農政局長賞

注3：図面番号表記の表記区分

☆ = 天皇杯

◇ = 内閣総理大臣賞

□ = 日本農林漁業振興会会長賞

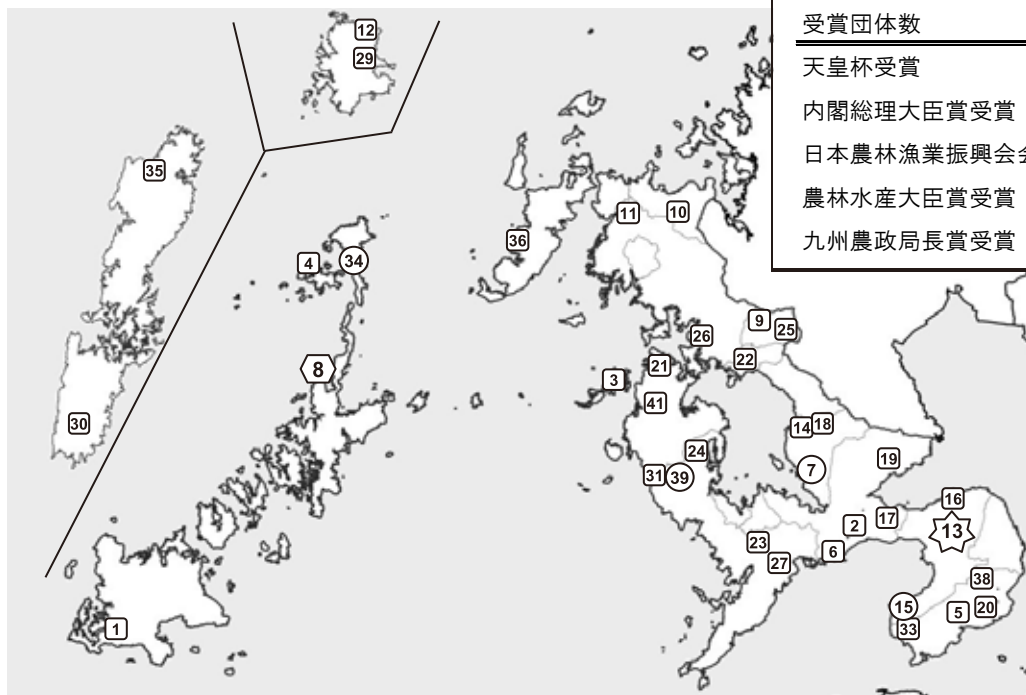
○ = 農林水産大臣賞

□ = 九州農政局長賞

注4：佐賀県～鹿児島県も同じ。

受賞団体一覧表（長崎県）

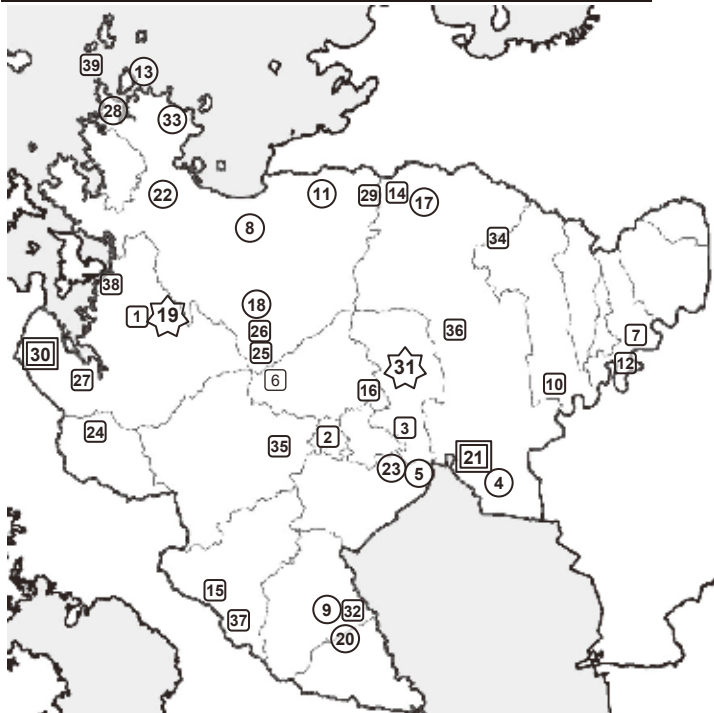
年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	大宝肉用牛生産組合	五島市（玉之浦町）		1	12年度	中山・五反田里づくりの会	川棚町		22
55年度	有喜地区むらづくり推進委員会	諫早市		2	13年度	現川物産館じげもん市	長崎市		23
56年度	大島町むらづくり運営委員会	西海市（大島町）		3	14年度	「きんかい味彩市」生産者の会	長崎市（琴海町）		24
57年度	緑を守る小値賀町青年連合会	小値賀町		4	15年度	鬼木郷地区	波佐見町		25
58年度	北有馬町むらづくり推進委員会	南島原市（北有馬町）		5	16年度	わくわくふれあい市利用組合	佐世保市		26
59年度	開名囲組	諫早市（飯盛町）		6	17年度	中尾地区農業振興協議会	長崎市		27
60年度	鈴田地区開発振興会	大村市	農	⑦	18年度	—	—	—	—
61年度	小串郷自治会	新上五島町（新魚目町）	内・農	⑧	19年度	芦辺湯岳生産組合	壱岐市（芦辺町）		29
62年度	川内郷振興会	波佐見町		9	20年度	内山地区むらづくり代表者会	対馬市（厳原町）		30
63年度	田ノ平免	松浦市		10	21年度	大中尾棚田保全組合	長崎市（外海町）		31
平成元年度	根引農事研究会	佐世保市（江迎町）		11	22年度	—	—	—	—
2年度	惣清地区生活改善グループ	壱岐市（芦辺町）		12	23年度	後登龍活性化委員会	南島原市（加津佐町）		33
3年度	岩戸村づくり実行委員会	雲仙市（瑞穂町）	天・農	⑬	24年度	特定非営利活動法人おぢかアイランドツーリズム協会	小値賀町	農	⑭
4年度	松原地域掘り起こし実行委員会	大村市		14	25年度	佐護ヤマネコ稲作研究会	対馬市（上県町）		35
5年度	南串山町新農業研究会	雲仙市（南串山町）	農	⑮	26年度	根獅子集落機能再編協議会	平戸市		36
6年度	高田むらづくり実行委員会	雲仙市（瑞穂町）		16	27年度	—	—	—	—
7年度	田尻名干拓部落	諫早市（森山町）		17	28年度	一般社団法人南島原ひまわり観光協会	南島原市		38
8年度	野岳山麓農村活性化協議会	大村市		18	29年度	大中尾棚田保全組合	長崎市（外海町）	農	⑯
9年度	折山集落	諫早市（高来町）		19	30年度	—	—	—	—
10年度	赤仁田宮農組合	南島原市（西有家町）		20	令和元年度	さいかい元気村協議会	西海市		41
11年度	よかところ実行委員会	西海市（西海町）		21					



受賞団体数	37
天皇杯受賞	1
内閣総理大臣賞受賞	1
日本農林漁業振興会会長賞受賞	0
農林水産大臣賞受賞	6
九州農政局長賞受賞	31

受賞団体一覧表（佐賀県）

年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市		1	12年度	大良むらぐるみ運動実践協議会	唐津市	農	②②
55年度	畑ヶ田集落	大町町		2	13年度	福富地域むらぐるみ運動実践協議会	白石町（福富町）	農	②③
56年度	練ヶ里集落	小城市（牛津町）		3	14年度	岳集落	有田町（西有田町）		24
57年度	大野集落	佐賀市（東与賀町）	農	④	15年度	蕨野地区	唐津市（相知町）		25
58年度	福富町北区	白石町（福富町）	農	⑤	16年度	JA佐賀松浦蓬地の里直販所利用運営協議会	唐津市（相知町）		26
59年度	西多久地区拠点地域実践協議会	多久市		6	17年度	脇野集落	伊万里市		27
60年度	市原地区	みやき町（北茂安町）		7	18年度	桃山天下市会	唐津市（鎮西町）	農	②⑧
61年度	半田地区	唐津市	農	⑧	19年度	大臼木活力あるむらづくり推進委員会	唐津市（七山村）		29
62年度	七浦地区	鹿島市	農	⑨	20年度	川内野集落	伊万里市	振・農	③⑩
63年度	千代田町小森田地区	神崎市（千代田町）		10	21年度	小城町農産物直売所「ほたるの郷」	小城市（小城町）	天・農	③①
平成元年度	七山村振興協議会	唐津市（七山村）	農	⑪	22年度	嘉瀬の浦区	鹿島市		32
2年度	ここほれジュッタンボ会	みやき町（三根町）		12	23年度	玄海みなとん里株式会社	唐津市	農	③③
3年度	加部島地区	唐津市（呼子町）	農	⑬	24年度	佐賀北部地域おこしフェスティバル実行委員会	佐賀市・神崎市（富士町・三瀬村・脊振村）		34
4年度	羽金山振興会	佐賀市（富士町）		14	25年度	橘町まちづくり推進協議会	武雄市		35
5年度	清水集落	嬉野市（嬉野町）		15	26年度	株式会社そよかぜ館	佐賀市（大和町）		36
6年度	北坊集落	多久市		16	27年度	吉田地区	嬉野市（嬉野町）		37
7年度	杉山集落	佐賀市（富士町）	農	⑰	28年度	波多津町まちづくり運営協議会	伊万里市		38
8年度	伊岐佐上集落	唐津市（相知町）	農	⑱	29年度	松島集落	唐津市（鎮西町）		39
9年度	南波多町農業振興協議会	伊万里市	天・農	⑲	30年度	—	—	—	—
10年度	伊福集落	太良町	農	⑳	令和元年度	—	—	—	—
11年度	西与賀地域実践協議会	佐賀市	振・農	㉑					

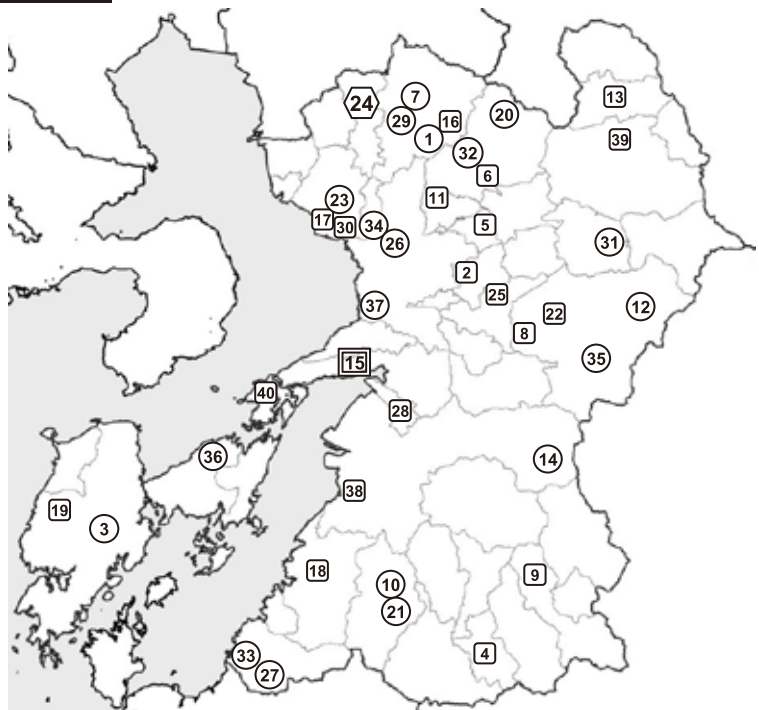


受賞団体数	39
天皇杯受賞	2
内閣総理大臣賞受賞	0
日本農林漁業振興会会長賞受賞	2
農林水産大臣賞受賞	17
九州農政局長賞受賞	22

受賞団体一覧表（熊本県）

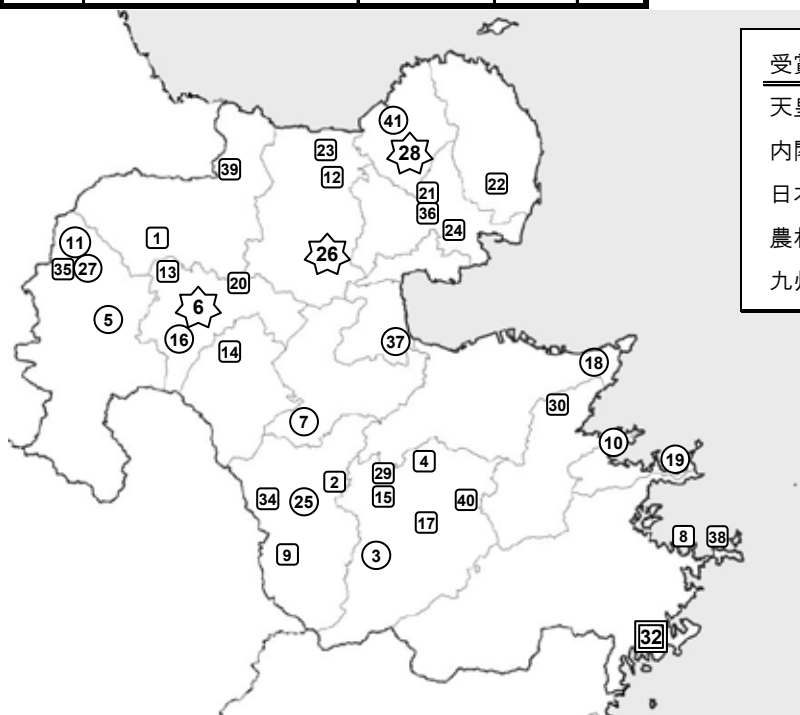
年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	馬見塚振興会	山鹿市	農	①	12年度	入佐地区	山都町（矢部町）		22
55年度	小池・秋永地区	益城町		2	13年度	尾田地区	玉名市（天水町）	農	②③
56年度	碓石地区	天草市（新和町）	農	③	14年度	夢ランド十町	和水町（三加和町）	内・農	④⑤
57年度	清水地区	あさぎり町（上村）		4	15年度	八勢地区	御船町		25
58年度	堀川地区	菊陽町		5	16年度	西里とれたて市会	熊本市	農	⑥⑦
59年度	福本地区	菊池市		6	17年度	村丸ごと生活博物館頭石	水俣市	農	⑧⑨
60年度	小坂地区	山鹿市	農	⑦	18年度	吉野梨研究同志会	氷川町（竜北町）		28
61年度	島木地区	山都町（矢部町）		8	19年度	平小城活性化協議会	山鹿市	農	⑩⑪
62年度	柳野集落	多良木町		9	20年度	天水農産物直売所協議会「てんすい郷〇市」	玉名市（天水町）		30
63年度	球磨村森林組合	球磨村	農	⑩⑪	21年度	両併地区	南阿蘇村（白水村）	農	⑫⑬
平成元年度	江良区	合志市（西合志町）		11	22年度	七城ホテルを育てる会	菊池市（七城町）	農	⑭⑮
2年度	熊本清和農業協同組合	山都町（清和村）	農	⑫⑬	23年度	村丸ごと生活博物館越小場地区	水俣市	農	⑯⑰
3年度	中湯田集落	南小国町		13	24年度	東門寺集落	熊本市	農	⑱⑲
4年度	五家荘平家の里管理組合	八代市（泉村）	農	⑭⑮	25年度	菅地域振興会	山都町（矢部町）	農	⑳㉑
5年度	大見集落	宇城市（不知火町）	振・農	⑮⑯	26年度	大浦地区振興会	天草市（有明町）	農	㉒㉓
6年度	阿佐古集落	山鹿市（菊鹿町）		16	27年度	天明環境保全隊	熊本市	農	㉔㉕
7年度	横島町特産物振興協会	玉名市（横島町）		17	28年度	NPO法人二見わっしょいファーム	八代市		38
8年度	横居木集落	芦北町（田浦町）		18	29年度	手野名水会	阿蘇市（一の宮町）		39
9年度	福連木地区	天草市（天草町）		19	30年度	上天草物産館さんばーる出荷協議会	上天草市		40
10年度	鳳来地区	菊池市	農	⑳㉑	令和元年度	—	—	—	—
11年度	毎床地区	球磨村	農	㉒㉓					

受賞団体数	40
天皇杯受賞	0
内閣総理大臣賞受賞	1
日本農林漁業振興会会長賞受賞	1
農林水産大臣賞受賞	21
九州農政局長賞受賞	19



受賞団体一覧表（大分県）

年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	鎌城酪農部	中津市（耶馬溪町）		1	12年度	山口陽農会	国東市（安岐町）		22
55年度	温見地区	豊後大野市（朝地町）		2	13年度	下城井農用地改善組合	宇佐市		23
56年度	草深野集落	豊後大野市（緒方町）	農	③	14年度	新庄むらづくり協議会	杵築市		24
57年度	津留農地利用組合	豊後大野市（大野町）		4	15年度	九重野地区担い手育成推進協議会	竹田市	農	②⑤
58年度	大山町農業協同組合	日田市（大山町）	農	⑤	16年度	松本集落	宇佐市（安心院町）	天・農	②⑥
59年度	山田西区	玖珠町	天・農	⑥	17年度	大肥郷ふるさと農業振興会	日田市	農	②⑦
60年度	住みよい豊かなむらにする会	由布市（庄内町）	農	⑦	18年度	ふき活性化協議会	豊後高田市	天・農	②⑧
61年度	大分県漁業協同組合米水津支店	佐伯市（米水津村）		8	19年度	温見地区	豊後大野市（朝地町）		29
62年度	荻町恵良原地区	竹田市（荻町）		9	20年度	藤河内・元気なむらづくりの会	臼杵市		30
63年度	長目地区むらづくり推進協議会	津久見市	農	⑩	21年度	—	—	—	—
平成元年度	大鶴地区	日田市	農	⑪	22年度	NPO法人かまえブルーーツーリズム研究会	佐伯市（蒲江町）	振・農	③②
2年度	下矢部地区	宇佐市		12	23年度	—	—	—	—
3年度	古後地区活性化委員会	玖珠町		13	24年度	農事組合法人紫草の里営農組合	竹田市		34
4年度	菅原自治会	九重町		14	25年度	農事組合法人小野谷	日田市		35
5年度	綿田地区自治会	豊後大野市（朝地町）		15	26年度	農事組合法人こめ・こめ・くらぶ	杵築市（山香町）		36
6年度	小田生き活き健康村実行委員会	玖珠町	農	⑬⑥	27年度	内成の棚田とむらづくりを考える会	別府市	農	③⑦
7年度	清川町林業研究グループ	豊後大野市（清川町）		17	28年度	間越地区活性化推進協議会	佐伯市（米水津村）		38
8年度	木佐上コミュニティ	大分市（佐賀関町）	農	⑬⑧	29年度	三光コスモス祭り実行委員会	中津市（三光村）		39
9年度	深良津二世会	津久見市	農	⑬⑨	30年度	農事組合法人芦刈農産	豊後大野市（三重町）		40
10年度	山下を良くする会	玖珠町		20	令和元年度	農事組合法人グリーンファーム畑	豊後高田市	農	④①
11年度	竜船蛟の里づくりの会	杵築市（山香町）		21					

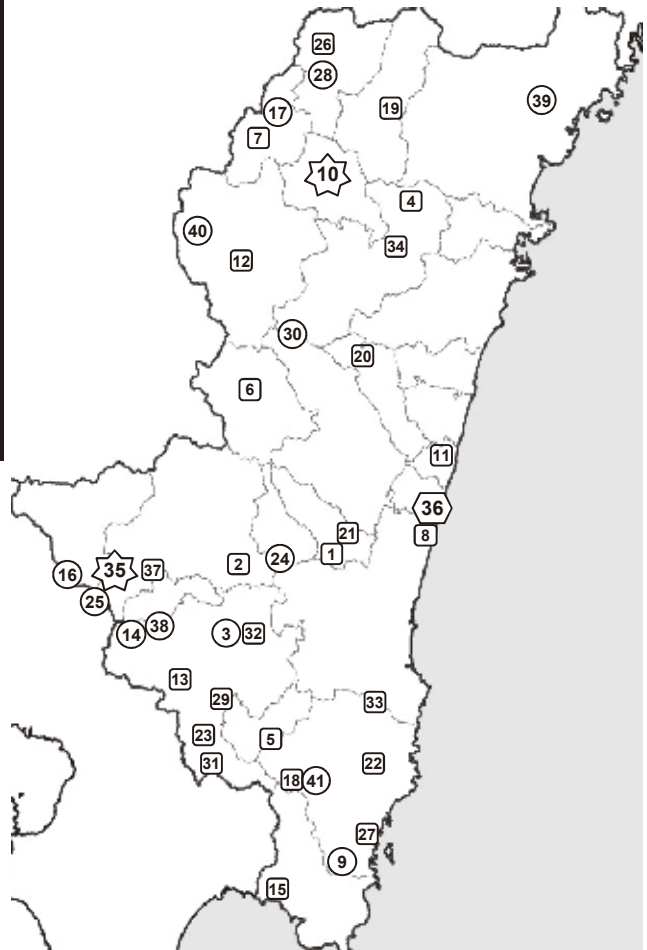


受賞団体数	39
天皇杯受賞	3
内閣総理大臣賞受賞	0
日本農林漁業振興会会長賞受賞	1
農林水産大臣賞受賞	16
九州農政局長賞受賞	23

受賞団体一覧表（宮崎県）

年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	国富町新農業振興対策協議会	国富町		1	16年度	高千穂町下野西集落	高千穂町		26
55年度	内山集落	小林市（須木村）		2	17年度	南平宮農組合	日南市		27
56年度	笛水集落	都城市（高崎町）	農	③	18年度	五ヶ村地区むらづくり協議会	高千穂町	農	②⑧
57年度	細宇納間公民館	美郷町（北郷村）		4	19年度	薄谷むらづくり推進協議会	都城市		29
58年度	長田地区公民館	三股町		5	20年度	銀鏡むらづくり推進会	西都市	農	③⑩
59年度	西米良果樹振興協議会	西米良村		6	21年度	NPO法人正応寺ごんだの会	都城市		31
60年度	宮の原地区	五ヶ瀬町		7	22年度	高崎町笛水地区活性化委員	都城市（高崎町）		32
61年度	日置地区	新富町		8	23年度	下小松集落営農組合	宮崎市		33
62年度	新しい村づくり推進委員会	日南市（南郷町）	農	⑨	24年度	上野原地区集落営農組合	美郷町（西郷村）		34
63年度	諸塚村自治公民館連絡協議会	諸塚村	天・農	⑩	25年度	田代自治会	えびの市	天・農	③⑤
平成元年度	清水・孫谷農事振興組合	川南町		11	26年度	染ヶ岡地区環境保全協議会	高鍋町	内・農	③⑥
2年度	桑の実生活改善グループ	椎葉村		12	27年度	北きりしま田舎物語推進協議会	小林市・えびの市・高原町		37
3年度	上南山田地区営農振興組合	都城市（山田町）		13	28年度	農事組合法人はなどう	高原町	農	③⑧
4年度	花堂むらおこしグループ	高原町	農	⑭	29年度	川坂川を守る会	延岡市（北川町）	農	③⑨
5年度	笠祇地区村づくり推進協議会	串間市		15	30年度	焼畑蕎麦苦楽部	椎葉村	農	④⑩
6年度	池島区	えびの市	農	⑮	令和元年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市	農	④①
7年度	宮の原むらづくり推進協議会	五ヶ瀬町	農	⑰					
8年度	酒谷地区むらおこし推進協議会	日南市		18					
9年度	鹿川集落	日之影町		19					
10年度	中之又ふれあい里づくり協議会	木城町		20					
11年度	石野田集落	西都市		21					
12年度	大藤地区推進委員会	日南市（北郷町）		22					
13年度	横市農用地利用改善組合	都城市		23					
14年度	綾町有機農業実践振興会	綾町	農	②④					
15年度	西長江浦むらづくり協議会	えびの市	農	②⑤					

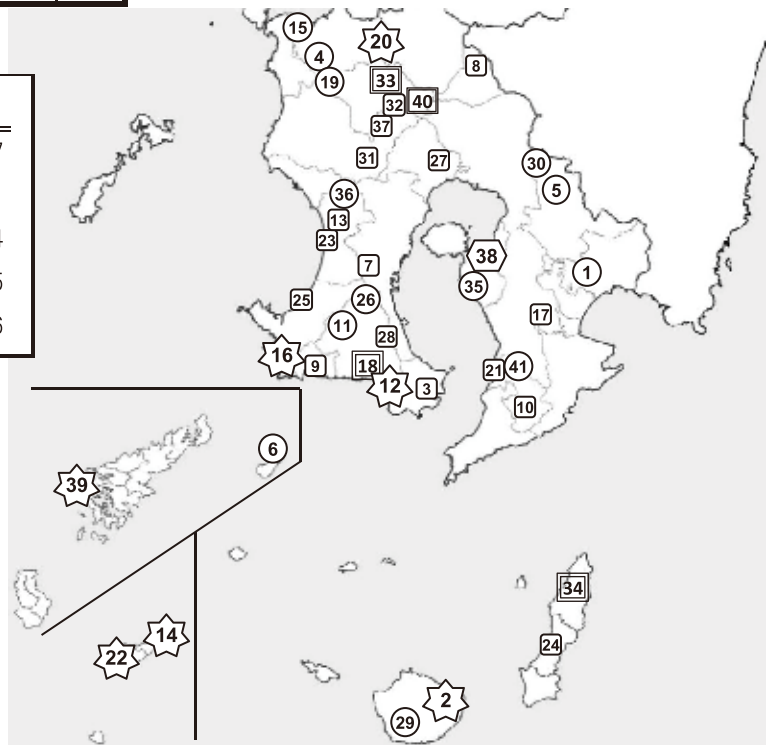
受賞団体数	41
天皇杯受賞	2
内閣総理大臣賞受賞	1
日本農林漁業振興会会長賞受賞	0
農林水産大臣賞受賞	16
九州農政局長賞受賞	25



受賞団体一覧表（鹿児島県）

年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号	年度	団体名	所在市町村	受賞区分	図面番号
昭和54年度	蓬原中野小組合	志布志市（有明町）	農	①	12年度	正名字	知名町	天・農	22
55年度	麦生集落	屋久島町（屋久町）	天・農	2	13年度	扇尾公民館	日置市（日吉町）		23
56年度	浜児ヶ水区	指宿市（山川町）		3	14年度	野間下地区むらづくり委員会	中種子町		24
57年度	高尾野千間山集落	出水市（高尾野町）	農	④	15年度	舞敷野公民館	南さつま市（加世田市）		25
58年度	常野地区	曾於市（財部町）	農	⑤	16年度	高田むらづくり委員会	南九州市（川辺町）	農	26
59年度	小野津地区	喜界町	農	⑥	17年度	小山田地区むらづくり委員会	始良市（加治木町）		27
60年度	永野地区	日置市（吹上町）		7	18年度	塗木むらづくり推進委員会	南九州市（知覧町）		28
61年度	川添地区	湧水町（吉松町）		8	19年度	原区むらづくり委員会	屋久島町（屋久町）	農	29
62年度	桜馬場地区	枕崎市		9	20年度	中谷地区むらづくり委員会	曾於市（財部町）	農	30
63年度	花瀬地区むらづくり推進協議会	錦江町（田代町）		10	21年度	大馬越地区コミュニティ協議会	薩摩川内市（入来町）		31
平成元年度	永田地区営農振興会	南九州市（川辺町）	農	⑪	22年度	永野区むらづくり委員会	さつま町（薩摩町）		32
2年度	上別府東部地区むらづくり振興会	南九州市（額娃町）	天・農	12	23年度	久富木区公民館	さつま町（宮之城町）	振・農	33
3年度	田代地区むらづくり振興会	日置市（東市来町）		13	24年度	現和校区	西之表市	振・農	34
4年度	国頭むらづくり委員会	和泊町	天・農	14	25年度	新城地区公民館	垂水市	農	35
5年度	青木地区	出水市（野田町）	農	15	26年度	高山地区公民館	日置市（東市来町）	農	36
6年度	大塚村づくり委員会	枕崎市	天・農	16	27年度	黒木地区コミュニティ協議会	薩摩川内市（祁答院町）		37
7年度	大迫むらづくり推進委員会	鹿屋市（串良町）		17	28年度	大野地区公民館	垂水市	内・農	38
8年度	菊永むらづくり推進委員会	南九州市（知覧町）	振・農	18	29年度	阿室校区活性化対策委員会	宇検村	天・農	39
9年度	時吉区公民館	さつま町（宮之城町）	農	19	30年度	中津川区公民館	さつま町（薩摩町）	振・農	40
10年度	上場自治公民館	出水市	天・農	20	令和元年度	宿利原地区公民館	錦江町（大根占町）	農	41
11年度	池田校区振興会	錦江町（大根占町）		21					

受賞団体数	41
天皇杯受賞	7
内閣総理大臣賞受賞	1
日本農林漁業振興会会長賞受賞	4
農林水産大臣賞受賞	25
九州農政局長賞受賞	16



「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」を選定

内閣官房及び農林水産省は、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより地域の活性化や所得向上に取り組んでいる優良事例を「ディスカバー農山漁村の宝」として選定し、全国に発信しています。

第6回目となる令和元年度は、全国で 931 団体及び個人から応募があり、31 事例が全国選定されました。九州管内では 101 団体及び個人から応募があり、4 事例が全国選定されました。

九州農政局では、全国選定された4事例以外にも数多くの優良な事例があることから、これらの事例を「九州農政局『ディスカバー農山漁村（むら）の宝』（第4回選定）」として、広く発信しています。

■「ディスカバー農山漁村の宝」（第6回選定）

<コミュニティ部門>

- ・北海道立 遠別農業高等学校（北海道 遠別町）
- ・上山市温泉クアオルト協議会（山形県 上山市）
- ・河北町元泉地域農地・水・環境保全組織運営委員会（山形県 河北町）
- ・JA 常陸 奥久慈枝物部会（茨城県 常陸大宮市）
- ・富士山集落活性化協議会（群馬県 川場村）
- ・東京 NEO-FARMERS！（東京都 渋谷区）
- ・石川県立 翠星高等学校 食品科学研究会（石川県 白山市）
- ・河北潟干拓土地改良区（石川県 津幡町）
- ・鞍掛山麓千枚田保存会（愛知県 新城市）
- ・さんさん山城（京都府 京田辺市）
- ・農事組合法人 かなん（大阪府 河南町）
- ・浄謙寺（広島県 北広島町）
- ・株式会社 三見シーマザーズ（山口県 萩市）
- ・愛媛県立宇和島水産高等学校 水産食品研究部「フィッシュガール」（愛媛県 宇和島市）
- ・すみやま棚田守る会（佐賀県 伊万里市）
- ・特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校（宮崎県 五ヶ瀬町）



<ビジネス部門>

- ・株式会社 山上木工（北海道 津別町）
- ・有限会社 渡辺体験牧場（北海道 弟子屈町）
- ・有限会社 伊豆沼農産（宮城県 登米市）
- ・株式会社 やまがたさくらんぼファーム（山形県 天童市）
- ・TATA GREEN 株式会社（埼玉県 熊谷市）
- ・杉本製茶株式会社（静岡県 島田市）
- ・株式会社 岩の原葡萄園（新潟県 上越市）
- ・株式会社 若狭の恵（福井県 小浜市）
- ・西尾南部ベイエリア協議会（愛知県 西尾市）
- ・ミナミ産業株式会社（三重県 四日市市）
- ・株式会社 魚の屋（島根県 大田市）
- ・農業生産法人 株式会社ミヤモトオレンジガーデン（愛媛県 八幡浜市）
- ・農事組合法人 ヒューマンライフ土佐（高知県 越知町）
- ・有限会社 シュシュ（長崎県 大村市）
- ・株式会社 南風ベジファーム（鹿児島県 南さつま市）

<個人部門>

- ・高橋 亨（東京都 檜原村）
- ・上乘 秀雄（石川県 能登町）
- ・大島 光利（岐阜県 恵那市）
- ・北川 静子（三重県 多気町）
- ・新居 希予（徳島県 阿南市）

■九州農政局「ディスカバー農山漁村の宝」(第4回選定)

<コミュニティ部門>

- ・ NPO 法人 伊万里はちがめプラン (佐賀県 伊万里市)
生ゴミを宝に持続可能な地域社会を目指して
- ・ 特定非営利活動法人 雪浦あんぱんね (長崎県 西海市)
世界と繋がるゆきのうら
- ・ 熊本県立菊池農業高校 グリーンライフ研究班 (熊本県 菊池市)
農業高校生が興す！田舎の萬屋プロジェクト
- ・ 芦北地域林業研究グループ (熊本県 芦北町)
先人が守り育てた山林を未来に受け継ぐ
- ・ 幸野溝土地改良区 (熊本県 湯前町)
世界かんがい施設遺産の里で学ぶ！
- ・ 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 (大分県 大分市)
次世代につなげよう！世界農業遺産の輪

<ビジネス部門>

- ・ 一般社団法人 まつうら党交流公社 (長崎県 松浦市)
松浦党の里 ほんなもん体験
- ・ 有限会社 清川ふるさと物産館夢市場 (大分県 豊後大野市)
地域が残れば「道の駅」も残る！！
- ・ 有限会社 清木場果樹園 (鹿児島県 南さつま市)
完熟きんかん等を使った加工品の開発の取組
- ・ 村商株式会社 (鹿児島県 肝付町)
全ての人へ感謝をエネルギーに！

※選定団体の取組等については、農林水産省及び九州農政局のホームページをご覧ください。

農林水産省 <http://www.maff.go.jp/j/nousin/kouryu/discover.html>

九州農政局 <http://www.maff.go.jp/kyusyu/keikaku/discover/discover.html>

全国選定団体の紹介 (コミュニティ部門)

すみやま棚田守る会

— すみやま棚田米が世界へ！ —



棚田保全活動で田植え体験



市内のスーパー等でお酒の販売会を実施

環境保全・景観保全 食育・教育 企業との連携



所在地
佐賀県 伊万里市

<概要>

- ・ 過疎化などにより荒廃した棚田を8年がかりで整備し、景観やオーナー制度による田植え及び収穫体験などによる交流者増加と純米酒の生産・販売などを実施。
- ・ 大学と連携した棚田での農業体験をテーマとした研究や水力発電によるイルミネーションなど、多様な者と連携した取組を実施。

<成果>

- ・ 棚田米から製造した純米吟醸酒が仏の日本酒品評会で金賞を受賞 (H28)。お酒は集客目的のため地元限定販売で350万円の売上 (H30)。
- ・ ケーブルTVと連携した動画配信、地元酒蔵と連携したお酒の製造、航空会社と連携した空港での販売など、様々な者との連携により関係者間の絆が深まり地域活性化にもつながっている。

特定非営利活動法人 五ヶ瀬自然学校

— 進化した複合型農林業システムで地域づくり —

その他（エコ+グリーンツーリズム）

食育・教育

6次産業化



夏休み6泊7日子ども探検キャンプで沢登り



村の住民がガイドするフットパスツアー／宮の原

所在地
宮崎県 五ヶ瀬町



<概要>

- ・地元の自然や資源などを最大限に活かして、農林業、エコツーリズム等を合わせた取組を行い活性化を図っている。
- ・集落ボランティアセンターでは、世界農業遺産の高千穂郷・椎葉山地域の集落支援や熊本地震災害支援も実施。

<成果>

- ・季節に応じた子どもを対象とした自然体験のイベントを年間26回開催し、延べ1,000人以上が参加（H30）。
- ・集落支援ボランティアは、熊本地震発生年のH28では延べ1,700人を派遣。

全国選定団体の紹介（ビジネス部門）

有限会社 シュシュ

— 農業テーマパークが地域を活性化 —

農林漁業、農村文化体験

食育・教育

6次産業化



地元産の農産物を使用したジェラート



インバウンド農泊受け入れの様子集合写真

所在地
長崎県 大村市



<概要>

- ・農家8戸で始めた直売所が、レストランや食育体験施設等を含む「農業テーマパーク」に発展し一年中來客のある交流拠点になった。
- ・地元農産物を生鮮品だけでなく、6次化による商品開発・販売を実施したり、食育体験や収穫体験など豊富なメニューで取組を展開。

<成果>

- ・6次化による売上高は3.2億円から3.9億円に増加（H26～30）。食育及び農業体験者数はともに増加しており合計約3万人（H30）。
- ・常時雇用職員の8割が女性。従業員は季節雇用も含めて年間100名以上で、賃金の総額は1.5億円。

株式会社 南風ベジファーム

— 6次産業化+福祉で地方の問題を解決 —

雇用

6次産業化

農福連携



人手のいる高菜の収穫作業の様子



作業軽減の目的でベビーリーフを高床式砂栽培で生産

所在地
鹿児島県 南さつま市



<概要>

- ・農場での野菜生産や施設での農産物加工に取り組み、障がい者を多く雇用。地域の農家の人手不足解消のため農作業を受委託。
- ・高床式栽培施設の導入や地元スーパーと共同で惣菜工場を建設するなど農福連携や6次産業化に向けた取組を積極的に展開。

<成果>

- ・加工品を含めた農業出荷額は約2,400万円から約1.8億円に増加（H26～H30）。農作業の受託により、農家の負担軽減や耕作放棄地防止に貢献。
- ・開業後5年で障がい者40名を含む60名の雇用を創出。6次産業化を進めることで1年を通した仕事を創出。

令和元年度 むらネット九州（豊かなむらづくりをめざして）

発行：九州農政局

編集：農村振興部 農村計画課

〒860-8527

熊本市西区春日2丁目10番1号 熊本地方合同庁舎

TEL：096-211-9111（内線4611）

FAX：096-211-9812（農村振興部）

九州農政局ホームページ：<http://www.maff.go.jp/kyusyu/>

リサイクル適性 

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。